統計数理（1991）
第39巻 第2号 187-224

中国における文盲・半文盲の規定要因の分析

東京大学大学院　林　燕　平*

(1991年6月　受付)

1. はじめに

中国の文盲・半文盲は全国総人口の約1/4を占め，世界の文盲総数の約1/4を占めている(『人民日報』(1990))．この事実は，中国の社会的進歩を長期的に妨げている一大要因である．

1982年7月1日付で行なわれた3回目の全国国勢調査（人口センサス）では，文盲・半文盲の基準を「12才以上で，読み書きができないか，または1,500以上の文字が読めず，分かりやすい書籍，新聞が読めず，簡単な手紙が書けないもの」としている（国務院人口普査弁公室(1985))．

この問題の背景は非常に複雑である．地理的環境，経済発展，教育発展，都市化，農業発展などの諸レベルの違いや性別，あるいは，政策の政治的誘導と実施的要因などの違いによって，各地区の文盲・半文盲率はさまざまである．本論文は主に中国1982年人口センサスで公表されたデータに基づき，各地区の文盲・半文盲が形成される規定要因について，具体的に分析を試みる．

2. 省，市，自治区別文盲・半文盲の分布及び成因

2.1 省，市，自治区別文盲・半文盲の現状

1982年の人口センサスの結果によれば，総人口は10億818万人（台湾，香港などを除く）である．そのうち，文盲・半文盲が2億3,772万人で，総人口の23.5%を占め，12才以上の人口の31.87%を占める．男性の文盲・半文盲は7,320万人，女性の文盲・半文盲は1億6,453万人で，それぞれ全国の12才以上の人口の19.15%，45.23%を占めている．

表1を見ると，省，市，自治区別の文盲・半文盲の割合が明らかになる．

まず，発布された「中華人民共和国憲法」の第30条の規定により，行政区域は省，市，自治区に区画されている．現在では，21省，5自治区，3直轄市がある(注1)(図1)．

筆者は図2から，文盲・半文盲率の高さで，29省，市，自治区を5つのグループに分けてみた．すなわち，文盲・半文盲率の低い地区，比較的低い地区，比較的高い地区，高い地区，特に高い地区である．

(a) 低い地区：北京市，遼寧省，上海市，天津市で，文盲・半文盲率は14.97～17.20%である．これらの地区は全て全国平均より著しく低い．

* 総合文化研究科相関社会科学科 修士課程：〒153 東京都目黒区駒場3-8-1.

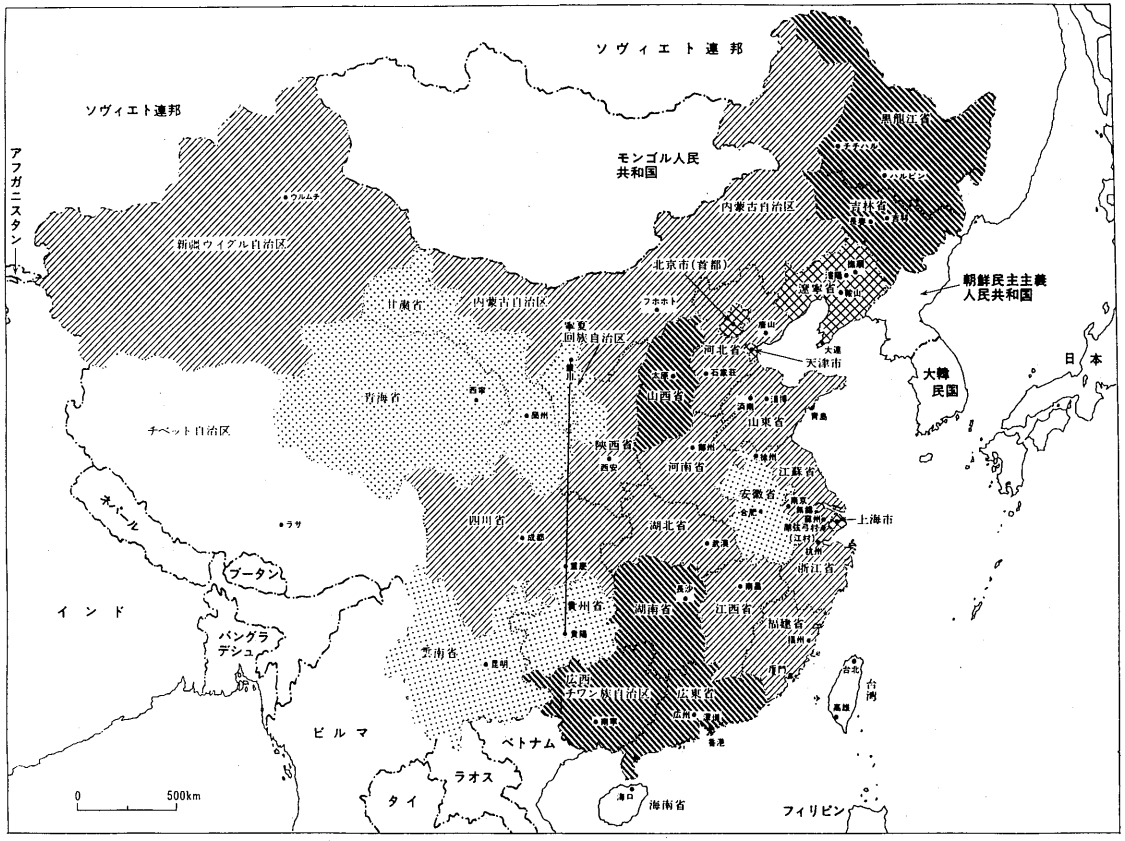

図1. 1982年人口センサス結果による省，市，自治区別文盲・半文盲率の分布．比率は国務院人口普査弁公室（1985）によって求めた．地図は若林（1989）による．

表1. 中国における省，市，自治区別文盲・半文盲人口.

地区別	12才以上の人口			文盲・半文盲人口			文盲・半文盲が12才以上の人口に占める百分比（%）		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
合計	745,927,105	382,204,755	363,722,350	237,720,787	73,195,405	164,525,382	31.87	19.15	45.23
北京市	7,696,852	3,877,386	3,819,466	1,151,905	300,331	851,574	14.97	7.75	22.30
天津市	6,328,390	3,202,858	3,125,532	1,088,678	268,344	820,334	17.20	8.38	26.25
河北省	40,384,157	20,612,082	19,772,075	11,935,381	3,615,019	8,320,362	29.55	17.54	42.08
山西省	18,760,274	9,771,265	8,989,009	4,568,416	1,560,353	3,008,063	24.35	15.97	33.46
内蒙古自治区	13,952,097	7,330,716	6,621,381	4,336,010	1,589,307	2,746,703	31.08	21.68	41.48
遼寧省	27,938,796	14,225,586	13,713,210	4,631,319	1,425,760	3,205,559	16.58	10.02	23.38
吉林省	16,911,771	8,663,917	8,247,854	3,683,486	1,296,985	2,386,501	21.78	14.97	28.93
黒竜江省	23,823,256	12,208,359	11,614,897	5,281,724	1,752,073	3,529,651	22.17	14.35	30.39
上海市	10,197,632	5,056,284	5,141,348	1,703,126	373,435	1,329,691	16.70	7.39	25.86
江蘇省	47,781,485	24,187,937	23,593,548	16,546,787	4,656,953	11,889,834	34.63	19.25	50.39
浙江省	30,309,623	15,718,218	14,591,405	9,458,013	3,005,178	6,452,835	31.20	19.12	44.22
安徽省	36,208,251	18,748,717	17,459,534	16,738,351	5,543,451	11,194,900	46.23	29.57	64.12
福建省	18,443,822	9,482,560	8,961,262	6,851,157	1,737,608	5,113,549	37.15	18.32	57.06
江西省	22,974,680	11,836,284	11,138,396	7,379,990	1,994,591	5,385,399	32.12	16.85	48.35
山東省	56,896,903	28,685,774	28,211,129	20,917,249	6,219,876	14,697,373	36.76	21.68	52.10
河南省	54,520,335	27,654,455	26,865,880	20,149,685	6,459,470	13,690,215	36.96	23.36	50.96
湖北省	36,125,386	18,532,012	17,593,374	11,240,624	3,287,717	7,952,907	31.12	17.74	45.20
湖南省	40,265,918	20,959,586	19,306,332	9,612,148	2,763,147	6,849,001	23.87	13.18	35.48
広東省	43,603,830	22,150,585	21,453,245	9,987,138	2,027,814	7,959,324	22.90	9.15	37.10
広西チワン族自治区	25,608,705	13,235,224	12,373,481	6,392,634	1,621,351	4,771,283	24.96	12.25	38.56
四川省	74,017,341	38,238,247	35,779,094	23,654,810	7,561,581	16,093,229	31.96	19.77	44.98
貴州省	19,281,640	9,877,783	9,403,857	9,232,736	2,897,416	6,335,320	47.88	29.33	67.37
雲南省	22,426,004	11,330,587	11,095,417	11,047,853	3,906,095	7,141,758	49.26	34.47	64.37
チベット自治区	1,319,721	646,798	672,923	965,496	397,987	567,509	73.16	61.53	84.33
陝西省	21,613,560	11,191,196	10,422,364	7,177,350	2,496,435	4,680,915	33.21	22.31	44.91
甘粛省	14,260,127	7,400,695	6,859,432	6,851,715	2,416,854	4,434,861	48.05	32.66	64.65
青海省	2,662,032	1,374,553	1,287,479	1,246,113	438,013	808,100	46.81	31.87	62.77
寧夏回族自治区	2,621,861	1,356,769	1,265,092	1,128,541	399,969	728,572	43.04	29.48	57.59
新疆ウイグル自治区	8,992,656	4,648,322	4,344,334	2,762,352	1,182,292	1,580,060	30.72	25.43	36.37

注：国務院人口普査弁公室（1985）による.

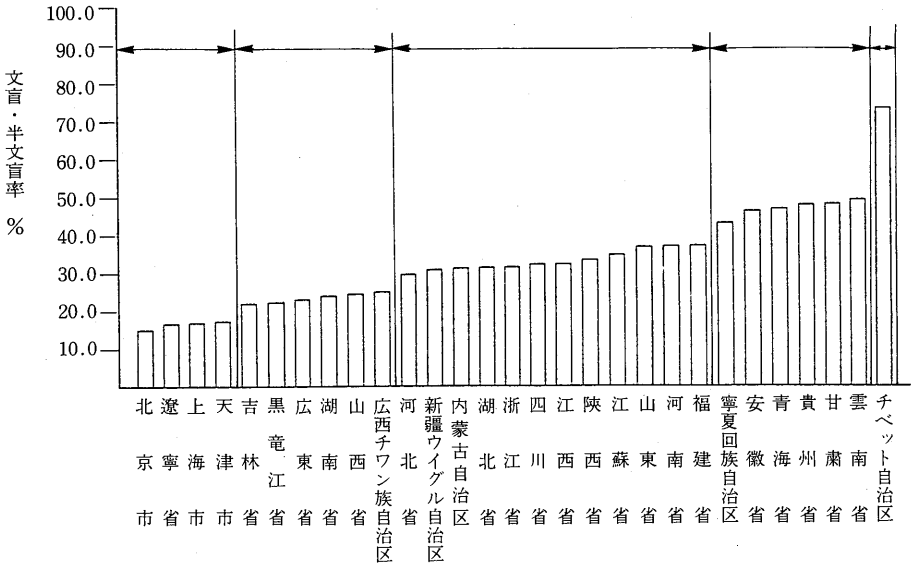

図2. 1982年人口センサス結果による省，市，自治区別文盲・半文盲率のグラフ（昇順）.

(b) 比較的低い地区：吉林省，黒竜江省，広東省，湖南省，山西省，広西チワン族自治区で，文盲・半文盲率は20.00～30.00%である．これらの地区は全て全国平均より低い．

(c) 比較的高い地区：河北省，新疆ウイグル自治区，内蒙古自治区，湖北省，浙江省，四川省，江西省，陝西省，江蘇省，山東省，河南省，福建省で，文盲・半文盲率は約30.00～37.15%である．これらの地区は全国平均に近い，あるいは全国平均よりやや高い．

(d) 高い地区：寧夏回族自治区，安徽省，青海省，貴州省，甘粛省，雲南省で，文盲・半文盲率は約43.00～50.00%である．これらの地区は全て全国平均より著しく高い．

(e) 特に高い地区：チベット自治区で，文盲・半文盲率は73.16%である．この地区は規定要因別より見ても，他の地区に比べ特に異なった地区である．

2.2 省，市，自治区別文盲・半文盲の成因分析

中国における省，市，自治区別文盲・半文盲の分布は，前に述べたように5つのグループに分類したが，これらのグループ間の差は何に起因するのであろうか．ここでは，教育水準において，各地区の抱えた社会的問題の中にそれらの要因をさぐってみる．以下では，7つの側面から論じてみよう．

2.2.1 地理的環境について

中国は世界でも陸地面積が広い国の1つで，面積は約960万km^2，地球の総陸地面積のほぼ6.5%を占める．また，東半球，アジア大陸の東部，太平洋の西岸に位置し，大部分の領土は中緯度地区にあり，温帯と亜熱帯が占める面積は広く，それぞれ中国陸地総面積の45.6%と26.1%である．

図3のように，中国の地形は複雑で，段階状を呈し，西から東へ向かって次第に低くなり，だいたい3つの段階に分けることができる．

最上段は，西南部の青海・チベット高原で，平均海抜4,000 m以上，“世界の屋根”と呼ばれている．青海・チベット高原の北縁を走る崑崙山脈，祁連山脈をこえ，東へ向かって大興安嶺，太

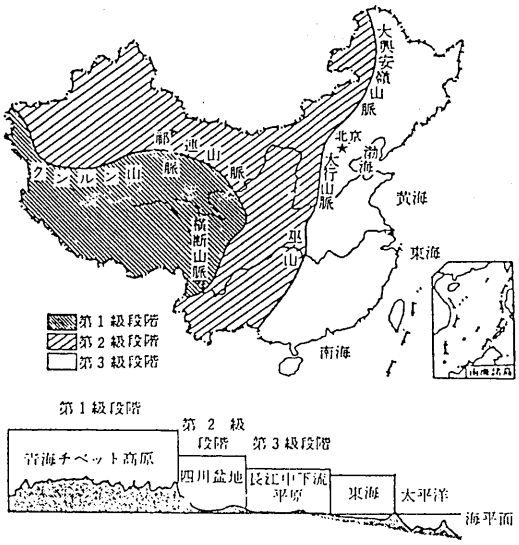

図3.　多段階地形図（中国研究所（1980）より転載）.

行山脈，巫山山脈までの一線が第2段階で，海抜1,000から2,000 mある．さらに東へ向かうと，大部分が500 m以下の丘陵と平原がひらける．それが第3の段階である．

また，地域の気候によって降水量の差異が著しい．青海・チベット高原は地勢が高く，気候が寒冷で，空気が稀薄である．年降水量は25～400 mmである．西北部の地区は海抜が1,000 m以上の内陸で，その気候は寒冷で乾燥するので，年降水量は全地域を通じて100～300 mm以下である．その中でも，砂漠は殆ど雨が降らない．東部は海抜500 m以下の丘陵と平原で，気候が温暖，湿潤で雨量も充分あり，年降水量は大抵800 mm以上である．特に東部の「沿海地区」は海に近く(注2)，海洋性の気候で年降水量が多い．中には2,000 mmを越えているところもある（『中国・現況と動向シリーズ』(1987)）.

図3のように中国の人口分布は地勢の高低に伴っており，海抜500 m以下の丘陵と平原は総面積の25.20%であるが，人口は総人口の79.7%を占めている．しかし，海抜2,000 m以上の高原と高山は，総面積の32.9%を占めるが，人口はわずか総人口の2.1%にすぎない．更に人口密度は数十倍の差がある（胡・張（1984））.

1949年の解放後，数年を経て国家計画部門は，部門構造（産業構造），区域構成（地勢の区別），経済核心（経済発展中心）の3つの面をもとに新中国を6つの経済区域に分類した．すなわち，東北区，華北区，華東区，中南区，西南区，西北区である（上海師範大学 他（1980））．これらの経済区域は，だいたい天然資源の分布状況を反映している．各地区の地勢と気候が多様なので，天然資源の分布も同じではない．しかし総体的に言えば，天然資源とその開発は，東から西に向かうにつれ，徐々に悪くなる．注目すべきことに，省，市，自治区別文盲・半文盲の分布も，中国の地理環境の特徴に符合している．

試みに，図1の寧夏回族自治区の銀川市の位置から，貴州省の貴陽市の位置まで垂直線を描いてみる．この垂直線は，本論文中で「銀貴線」と呼ばれるものである(注3)．図1を見れば分かるように，安徽省だけを除き，文盲・半文盲率の高い地区や特に高い地区は，全部銀貴線以西にあり，文盲・半文盲率の低い地区や比較的低い地区は，全て銀貴線以東にあることから，筆者が名付けた分割線である．

表2. 地区別の文盲・半文盲率の格差.

地区	文盲・半文盲率（平均％）
沿海地区	25.69
内　地	31.83
辺遠地区	45.48

注：(1) 沿海地区，内地，辺遠地区は注2，注4，注5を参照.
(2) 文盲・半文盲率は，1982年の人口センサスの結果から求めた.

(a) 文盲・半文盲率の低い地区は，全て東部の沿海地区である．自然条件に恵まれ，人口密度は全国平均値より極めて高い．中でも上海市は特に高く，1,913（人/km²）となっている．

(b) 比較的低い地区は，広東省と広西チワン族自治区を除くと，全て「内地」である(注4)．しかし，これらの地区は総体的に言えば，自然条件が比較的良く，特に天然資源が豊かである．黒竜江省の北部は寒いので人口は少ないが，その他は全て人口密度は全国平均水準を上回っている．

(c) 比較的高い地区は，分布の範囲が非常に広く，自然条件の差異が著しい．図1を見ると，5省が東部沿海地区で，5省が内地，2自治区が「辺遠地区」である(注5)．2自治区を除き，全ての地区の人口密度は全国平均値より高い．

(d) 高い地区は3省が内地で，2省と1自治区が辺遠地区である．これらの地区は，全て自然条件の良くない地区である．安徽省の人口密度は低くないし，位置も東部にあるが，この地区は，歴史上では災害が頻発している地区である．統計によると，400年間に，水害が190回，旱害が113回ある（秦（1987））．安徽省以外のところは，人口密度が概ね全国平均値より低い．

(e) 特に高い地区であるチベット自治区は“世界の屋根”と呼ばれる．この地区の人々は長年にわたり海抜4,000 m以上のところに住んでいて，自然条件は極めて悪い．人口密度はわずかに1.6（人/km²）で，全国の最低位となっている．この数字は上海市の1,913（人/km²）と比べると驚くべき数字である．

表2から分かるように，文盲・半文盲の分布は，地理的環境とかなり関係があると言える．

2.2.2 経済発展のレベルについて

中国は2000年以上の長い間封建社会であった．その間，産業革命は発生しなかった．国家経済の主体は，終始，自給自足の小農経済であった．1936年の産業労働者は，約300万人で，総人口のわずか0.6%を占めるにすぎなかった（柳・関（1985））．経済は極めて遅れ，生産力も極めて低いものであった．ちなみに，統計によると，1949年1人当りの農工業生産額はわずか86元である（国家統計局（1989））．また，近代工業が発生，発展したところは，主に東北，沿海地区のいくつかの大都市に集中し，その分布の偏りが著しかった．

しかしながら，新中国が成立してから，経済の発展はようやく端緒についた．統計によると，1982年1人当りの農工業生産額は814元であった（国家統計局（1989））．しかし，中国は世界の中で依然として貧困な国に属しており，経済の発展は殆ど近代工業が発生，発展していた地域に限られる．

言うまでもなく，貧困国においては教育への多額の投資が難しい．一般的に，経済の発展は

教育水準と深い関わりがあるとされている．中国の省，市，自治区別文盲・半文盲率の高低は，各地域の経済発展の水準を反映している．

付録1を見ると，1人当りの農工業生産額が高い地域は，全て銀貴線以東の東北，沿海地区にあり，低い地域は全て銀貴線以西にある．

(a) 文盲・半文盲率の低い地区は，全て工業の発展水準が高いところであり，第2次産業就労人口が全就労人口の40%に達する．中でも上海市は全国第1で43.6%である．また，これらの地域は，1人当りの農工業生産額も高い．上海市は全国平均の7.3倍である．しかも，水陸交通，空路も比較的発達しており，国内交通の要所であるばかりでなく，海外交通の要所でもある．

(b) 比較的低い地区である吉林省と黒竜江省は，工業水準の比較的高い地域である．第2次産業就労人口が，全就労人口の33%以上を占める．1人当りの農工業生産額も，全国平均値より高い．この2つの省は遼寧省とあわせて“東北3省”と言われる．東北3省は経済力を最も有する地域の1つであり，工業も発展しており，鉄道網は全国一整備されている．山西省の第2次産業就労人口及び1人当りの農工業生産額は，上述の地域よりもやや劣る．しかし，山西省は石炭の産地である．統計によると，1983年の生産量は1.6億tで全国生産量の1/4を占め，エネルギー供給の重要な基地の1つである（中国社会科学院人口研究所（1985））．広東省，湖南省，広西チワン族自治区の第2次産業就労人口及び1人当りの農工業生産額は全国平均値よりかなり低い．しかし，この“両広一湖”に共通する特徴は自然条件が良く，水陸交通が便利で，農業が発達し，食糧の生産量は全て全国平均より高いことである．更に，農産物，家畜飼育，水産物にも恵まれている．また，これらの地域は軽工業が比較的発達しており，特に広東省では1982年の軽工業の生産量は工業生産量の64.6%を占め，全国第1位であった．広東省は“華僑の故郷”でもあり，華僑の70%は当地出身で，商業が比較的発達しており，最近の経済発展はめざましい（上海師範大学 他（1980））．

(c) 比較的高い地区の10省は，第2次産業就労人口は低い．残りの2つの自治区は，やや全国平均より高いけれども，経済の効率が低い．第2次産業就労人口は総経済活動人口の3.2%，生産量は総生産量の2.36%にすぎない．これらの地域は，江蘇省，浙江省，湖北省で，1人当りの農工業生産額は全国平均をこえるが，山東省が全国平均に接近する以外全て全国平均より低い．江蘇省，浙江省，湖北省，山東省の1人当りの農工業生産額がそれほど低くないのは，農業及び軽工業の発達と密接な関係にある．これらの地域は全て，農産物の主要な生産基地で，農工業の総生産額における農業生産額の占める割合はかなり高い．

(d) 高い地区は，工業水準が低く，労働生産性も低い．有史以来の経済後発地区である．これらの地区は，1人当りの農工業生産額も最も低い地区である．工業ばかりでなく，農業も後発の地区である．ある地区では，食糧を自給自足することができない．交通も不便で，経済の発展は極めて遅れている．

(e) 特に高い地区であるチベット自治区は，各種の経済指標は全国の最下位である．“世界の屋根”と呼ばれる高原にあって，交通は極めて不便で，未だに鉄道のない唯一の地区である．大雪で道路も1年のうち半年ぐらい通行できない．自然条件が非常にきびしく，中国において最も後発の地区である．

文盲・半文盲率を従属変数（Y），1人当りの農工業生産額を独立変数（X）として相関関係を見ると，次の回帰直線が求められる．

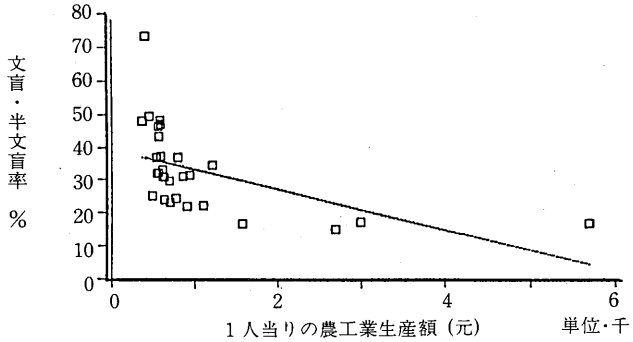

図4. 文盲・半文盲率と1人当りの農工業生産額の関係.

$$Y=39.195-0.006X \tag{2.1}$$

（図4）

ここで，2変数相関係数は $r=-0.52$ となった．変数 Y と X の間に線型関係があるか否かを検定するには，r を用いて無相関の帰無仮説 H_0: $\rho=0$（ρ は母相関係数）を検定する．これは，検定統計量

$$t=\frac{\sqrt{n-2}\cdot r}{\sqrt{(1-r^2)}}$$

が，H_0 の下で自由度 $n-2$ の t 分布に従うことを利用して行なう（n はデータ数）．

文盲・半文盲率と1人当りの農工業生産額のデータから

$$t=\frac{\sqrt{27}\cdot(0.520)}{\sqrt{1-(0.520)^2}}=3.16$$

$t_{.025}(27)=2.05$ より，無相関の仮説は有意水準5%で棄却され，文盲・半文盲率と1人当りの農工業生産額に相関がないとは言えない．したがって，文盲・半文盲率が高いのは，経済発展レベルが緩慢であることと関係があるのではないかと考えられる．

2.2.3 教育発展のレベルについて

1982年の人口センサス結果によると，中国で大学卒業程度の学力を持つ人は601万人，わずか総人口の0.6%，高等中学校程度の学歴を持つ人は6,648万人，総人口の6.6%，初等中学校程度の学歴を持つ人は17,828万人，総人口の17.8%，小学校程度の学歴を持つ人は35,516万人，総人口の35.4%，文盲・半文盲は23,582万人，総人口の23.5%をそれぞれ占める．

上述のように，中国の総人口の中で，小学校程度の学歴を持つ人と文盲・半文盲は総人口の60%を占める．このような低い教育水準は，中国の教育事業が立ち遅れている現状を示している．

解放前，中国の人口の80%以上は文盲であった．学齢児童の入学率はわずか20%程度であった．学校の分布がアンバランスで，高等学校と中等専門学校は殆ど大・中都市と沿海地区に集中し，中・小学校も多数は都市にあって，農村には少なかった．そして，内陸地区，辺遠地区，少数民族地区の教育事業は最も立ち遅れていた（中国教育部計画財務司 編（1984））．

新中国が成立してから，教育事業はかなり進歩して，優秀な人材を多く輩出するようになった．しかし，中国の教育水準は世界の他の国々と比較すると，未だ低いレベルに属している．1982年の1万人当りの大学生数は，中国ではわずか60人であるが，1970年にアメリカで1,492人，日本で637人，ソビエトで450人となっている．1982年において，全国就業人口中の肉体労働

者と事務労働者の比率は，中国で 92 : 8，アメリカで 53 : 47，日本で 70 : 30 である．事務労働者のうちに占める専門職の割合は，中国で 5.07% であるが，日本では 8.35% に達し，アメリカでは 17.03% にも達する（王）．

1975 年における教育費の国民総生産に対する割合は，ソビエト 7.6%，アメリカ 6.5%，日本 5.5%，インド 2.8% である．しかし，1978 年の中国の同割合は，わずか 1.12% にすぎない．1965 年から 1974 年の間に，アメリカの教育費は 370 億ドルから 913 億ドルに増えた．また，日本を例にとれば，1950 年から 1970 年の間に国民総生産は 11 倍になり，教育費は 21 倍となった（趙 (1985)）．更に，高等教育が普及し，大学への入学率は 40% に達した．1950 年から 1965 年までの中国での平均教育費は，財政支出のわずか 5.93% となっている．この間 1950 年は 5.52% で，最も低いのは 1959 年の 4.36%，最も高いのは 1963 年の 7.33% である．この 16 年間では殆ど増えていない．1966 年から 1976 年の間には更に低下して，平均 5.77% となった．特に，1970 年は中国史上最低の 4.24% となった．1977 年から 1982 年では，やっと 7.54% に達した．教育基本建設(注6)への投資は更に少ない．1949 年から 1982 年の 33 年間に，平均投資額は全国基本建設の投資の 1.82% で，この間，最も低い年は 1970 年の 0.2%，最も高い年は 1954 年の 3.94% であった（中国教育部計画財務司 編 (1984)）．

また，教師の質も低下している．1988 年の『教師法草案』による統計データを見ると，学歴が基準に達していない大学教師の比率は 11%，高等中学が 58.7%，初等中学が 64.4%，小学校が 31.9% となっている．中でも，農村の中・小学校教師 594 万人のうち，250 万人が基準に達しておらず，その比率は 42% にも達している（包 (1989)）．教師の質が低下すれば，当然生徒の質も高くならない．農業が経済の基礎となるように，小学校教育は教育事業の基礎である．中国の文盲・半文盲率の高い原因は，基礎教育の遅れにある．学齢児童入学率は日本が 99%，中国において名目は 90% 以上であるが，卒業できる人は 60%，本当に卒業に値する水準に達する人は 30% にすぎず，「3, 6, 9」の状況を呈している（劉 他 (1980)）．

当然のことながら，この中退の児童の多くが，文盲・半文盲になるのである．表 10 のように，12 才から 39 才の人の中に，文盲・半文盲が 8,523 万人含まれる．39 才の人は 1949 年に 7 才であり，この年齢は，丁度，学齢児童の年齢であるから，筆者は 12 才から 39 才の文盲・半文盲を，「新文盲・半文盲」（新中国成立以後生まれた文盲・半文盲を指す）と呼びたい．これらの「新文盲・半文盲」の人数は文盲・半文盲の総数の 35.85% を占める，つまり，1/3 以上の文盲・半文盲が解放後に生まれてきたものである．「新文盲・半文盲」の平均年増加数は，266 万 3,308 人になっていた．

明らかに，1 つの地区の人口の教育水準の高低は，各地区の教育発展のレベルを反映している．中国の省，市，自治区別文盲・半文盲の分布は，確かにこの点を示している．

1982 年の統計資料によると，中国には，大学が 715 校，中等技術学校が 2,168 校，普通中学校が 101,649 校，小学校が 880,516 校ある．これらの学校の 2/3 以上は，図 1 の銀貴線以東に分布する．ところが，銀貴線以西においては，大学の割合は 23.35% (167 校)，中等技術学校の割合は 27.39%（594 校），普通中学校の割合は 18.77%（19,088 校），小学校の割合は 32.20% (283,556 校）である(注7)．

(a) 文盲・半文盲率の低い地区：中国の教育において相対的に発達した地区であり，そのうち，北京市だけでも大学 51 校で，全国の第一位を占めている．3 つの直轄市は，1,000 人当りの大学生数はいずれも全国の平均値より数倍も高い．北京市は全国平均の 7.2 倍で，中国の文化教育の中心となっている．

(b) 比較的低い地区：吉林省と黒竜江省が，1,000 人当りの大学生数が全国の平均値よりや

表3. 1,000人当りの小学校以上の学歴を持つ人数，文盲・半文盲人数，延べ教育年数*(国家統計局 (1986)).

地区	小学校以上合計	大学卒業	大学中退あるいは在学	高等中学校	初等中学校	小学校	文盲・半文盲(12才以上)	小学校卒以上の教育を受けた人数×年数(全体)**	小学校卒以上の教育を受けた人数×年数(女性)
29の省，自治区，直轄市の合計	605	5	2	68	179	353	236	4653	1850
北京	778	36	13	176	291	232	125	7061	3220
天津	749	16	7	133	285	308	140	6363	2816
河北	635	3	1	75	192	364	225	4876	1997
山西	686	4	2	74	218	388	181	5270	2239
内蒙古	601	4	1	75	193	328	225	4683	1911
遼寧	736	7	3	93	276	357	130	5896	2644
吉林	685	6	2	108	209	360	163	5461	2417
黒竜江	678	5	2	94	222	355	162	5364	2344
上海	771	24	11	204	280	252	144	7018	3125
江蘇	603	5	2	70	200	326	273	4704	1782
浙江	628	3	1	52	178	394	243	4652	1845
安徽	483	3	1	40	142	297	337	3602	1184
福建	552	5	1	57	126	363	265	4090	1388
江西	577	3	1	55	132	386	222	4226	1563
山東	577	3	1	59	177	337	281	4385	1659
河南	570	2	1	63	192	312	271	4402	1709
湖北	625	4	2	75	187	357	235	4817	1880
湖南	673	3	1	65	173	431	178	4985	2033
広東	659	4	1	79	169	406	168	4983	1963
広西	614	3	1	65	157	388	176	4583	1810
四川	614	3	1	40	155	415	237	4427	1172
貴州	436	3	1	30	114	288	323	3176	1007
雲南	426	2	1	28	102	293	339	3058	1102
チベット	220	4	1	12	37	166	518	1551	483
陝西	608	6	2	79	194	327	248	4780	1915
甘粛	467	4	1	63	122	277	350	3594	1215
青海	456	7	1	51	140	257	320	3540	1270
寧夏	471	5	1	53	155	257	290	3667	1359
新疆	584	5	2	64	175	338	211	4479	2005

* 小学校は6年，初等中学校は3年，高等中学校は3年制である．

** この数字は教育を受けた年数×人数である．教育を受けた年数は小学校卒は6年，初等中学校卒は9年，高等中学校卒は12年，大学卒は16年である．なお，大学中退あるいは在学は14年として計算した．

や高いことを除いて，その他の地区は，全て全国の平均より低い．これらの地区に共通する特徴としては，中学校教育と小学校教育のレベルが比較的高いことがあげられる．いずれも，教育水準は全国平均より高い．基礎教育もよく行なわれており，これらの地区における文盲・半文盲率が相対的に低い直接の原因となっている．このことは，あらためて基礎教育の重要性を物語っている．

(c) 比較的高い地区：江蘇省，福建省，湖北省，陝西省，新疆ウイグル自治区が，1,000人当りの大学生数が全国の平均値よりやや高いことを除いて，その他の地区は，全て全国平均より低い．概観するに，これらの地区の総合教育水準は，それほど高いものではない．河北省，湖北省，四川省，陝西省を除いて，1,000人当りの小学校以上の学歴を持つ人の数はいずれも全国の平均より低い．ただ，河北省などの地区は，1,000人当りの小学校以上の学歴を持つ人の数が，全国の平均より高い．それにもかかわらず，これらの地区の文盲・半文盲率は全国の平均に接近するか，それよりも高い．これは不思議な現象である．もしこのデータが正しく，教育水準と文盲率との相関を前提とするならば，こう解釈するよりほかはなかろう．つまり，地区内に例外を内包しているが，地区全体として見れば小学校卒の学歴を持たない人の割合が大きいということである．

(d) 高い地区：教育の立ち遅れた地区であり，寧夏回族自治区で1,000人当りの大学生数が全国の平均に等しいことを除いて，その他の地区はいずれも全国の平均より低い．そして，これらの地区の基礎教育，初等教育のレベルは，いずれも全国の平均よりかなり低い．少数民族地区の学齢児童の入学率は，60%程度かもっと低い．1,000人当りの小学校以上の学歴を持つ人の数も，一番少ない．

(e) 特に高い地区：チベット自治区は，最も教育の立ち遅れた地区であって，各項目の経済指標の中で最後尾であるし，各項目の教育指標の中でも同じである．この地区の1,000人当りの小学校以上の学歴を持つ人の数も，全国平均の1/3程度である．6才から11才の学校に行かなかった児童の人数が，その年齢の人口の80.06%を占めている（中国社会科学院人口研究所（1985））．

表3の数値から文盲・半文盲率を従属変数（Y），1,000人当りの小学校以上の学歴を持つ人の延べ教育年数を独立変数（X）として(注8)，相関関係を見ると，以下のような回帰直線が書ける．

$$Y=81.263-0.015X \tag{2.2}$$

（図5）

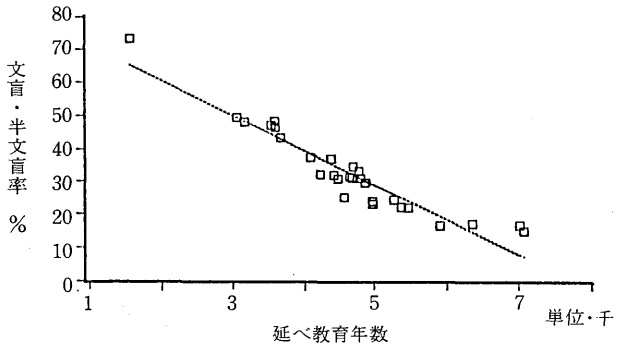

図5．文盲・半文盲率と教育水準の関係．

ここで，2変数の間の相関係数は $r=-0.95$ で，検定すると

$$t=\frac{\sqrt{27}\cdot(0.947)}{\sqrt{1-(0.947)^2}}=15.32$$

となり，5% 水準で有意となる．

ここから，文盲・半文盲率と教育水準は，直接的関係のあることが明瞭に言える．

生産力とは“知識の物質化された力である”（マルクス・エンゲルス（1980））．教育こそ投資である．日本の経済がこれほど早く発展できたのも，この良い例証である．戦後，日本国民の暮し向きは苦しく，その当時の中国昆明市の生活レベルに相当するものであった（費（1986））．日本が一流の経済大国になったことには原因がいくつかあろうが，思い切って基礎的教育に投資したことも根本的要因の1つであろうことは疑いない．

2.2.4 都市化のレベルについて

都市化のレベルがどんどん上がるうちに，衛生施設，住居，所得格差，環境悪化などの問題もあわせて出てきた．ところが，一般的に言えば，都市化のレベルが高ければ高いほど文盲率が低くなる傾向になる．

1949年に新中国が成立した時，都市人口はわずか総人口の10.6% を占めていただけであった．1982年になっても，20.6% にとどまっている．建国33年来，都市人口は94% 増加したが，人口の総数も相応に86% 増加した．都市人口の農村人口に対する比は，一貫して低いレベルにとどまっている．1980年の統計によると，英国では都市人口の占める比率は90.8%，日本では76.2%，アメリカでは73.7%，世界平均値は40.0% である（国家統計局人口統計司（1989））．中国の都市化のレベルは世界平均レベルよりはるかに低い．疑いなく，中国の都市化レベルの低いことは，農村近代化のレベルが低いことと相関があるのである．

中国の都市は，非農業人口の多少によって，大・中・小の3階級の都市に分けられている．非農業人口が50万以上は大都市，20～50万は中都市，20万以下は小都市となる．この外に，中国では習慣的に，100万人をオーバーした都市を特大都市としている（朱（1987））．1982年末では，中国には都市が245あって，その内訳は，特大都市20，大都市28，中都市70，小都市127である．そのうち，大都市の人口は，都市総人口の過半数を占めて，63.83% であり，中都市は22.60%，小都市13.57% である．農業人口が50～70% を占めている都市が27市あり，75% をオーバーする都市は14市あり，最も高いのは山東省泰安市で，88.17% を占めている（胡・張（1984））．以上のように，大・中・小都市の都市化レベルは千差万別である（表4）．

なお，中国の都市の分布も均一ではない．西部地区は人口が極めて少なく，住居も散らばっ

表4．特大都市の上位5都市（単位：万人）．

都市名	1982年末総人口		文盲・半文盲率 (%)
	合計	非農業人口	
上　海	627	622	11.1
北　京	555	477	10.2
天　津	513	392	12.7
瀋　陽	402	303	10.5
武　漢	323	273	12.9

注：(1) 都市の人口は国家統計局（1985）による．
(2) 文盲・半文盲率は付録2によって求めた．

表5．1982年人口センサス結果による特大，大，中，小都市の教育水準．

都市規模	大学生の内訳（%）	1万人当りの大学生数	文盲・半文盲率（平均%）
特大都市	56.7	113	12.4
大都市	21.7	83	14.8
中都市	12.8	36	16.2
小都市	8.8	34	20.2

注：(1) 付録2から求めた．
(2) 特大都市は人口100万人以上，大都市は50万人以上，中都市は20～50万人，小都市は20万人以下である．

ており，また，遊牧民族の流動性という特質は，西部地区の都市や町の建設に困難をもたらした．つまり，西へ行くにつれて，都市の分布はますますばらつくのである．1982年の統計によると，図1の銀貴線より西側にあるのは20の特大都市のうち，4つ，28の大都市のうち，2つである．この48の都市は，その31が東北及び沿海地区に分布しており，辺遠地区には4つしかない．都市人口のうち，沿海地区にあるのは45.2%，内地は48%で，辺遠地区は6.8%だけである（胡・張（1984））．明らかに，この不均衡は経済発展の不均衡とつながりがあり，それが教育に影響を及ぼしている．

一般的に言えば，都市の発達程度は国家の教育事業の発達レベルと正比例の関係を持つものである．都市の文化程度が高ければ，それだけ教育が発達し，文盲・半文盲率も低くなる．表5のように，1982年に中国の都市における大学の在学生は全国総数の93.1%を占め，そのうち，特大都市は56.7%，大都市は21.7%，中都市は12.8%で，小都市はわずか8.8%を占めているだけである．1万人当りの大学在学生数は，特大都市で113人，大都市で83人，中都市で36人，小都市で34人である（朱（1987））．文盲・半文盲率は，特大都市は12.4%，大都市は14.8%，中都市は16.2%，小都市は20.2%である（付録2参照）．

図6，図7のように，都市化のレベルが高ければ高いほど文盲・半文盲率は低い．各省，市，自治区の文盲・半文盲率の高さは，丁度この関係を示している．

(a) 低い地区：3つの直轄市は，特大都市の中でもトップ3を占める都市であって，都市化のレベルは最も高い．遼寧省1省だけでも，特大都市として沈陽，大連，鞍山，撫順があり，大都市として本渓，錦州，阜新を有していて，都市化レベルが最も高い省である．

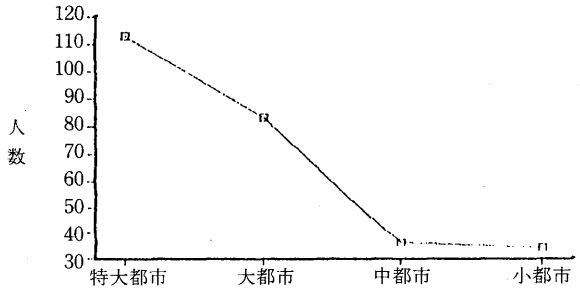

図6．1万人当りの大学生数．

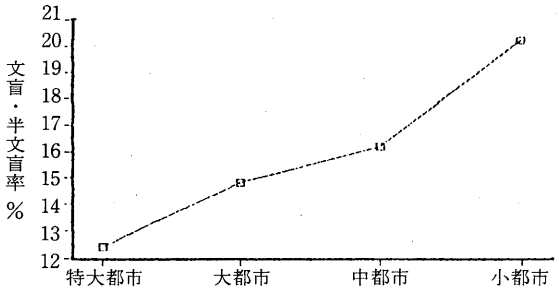

図7. 都市別文盲・半文盲率.

表6. 都市化水準と文盲・半文盲率.

グループ	地区数	特大都市数	大都市数	非農業人口の比率（平均％）	文盲・半文盲率（平均％）
a	4	7	3	85.4	11.28
b	6	4	7	65.6	14.35
c	12	7	15	59.1	18.38
d	6	2	3	64.9	21.08
e	1	0	0	25.0	26.80
合　計	29	20	28		

注：(1) 都市数は国家統計局（1985）から求めた.
(2) 都市非農業人口の比率と文盲・半文盲率は付録2から求めた.
(3) 中都市，小都市のデータは入手できなかった.

(b) 比較的低い地区：いずれも，特大都市と大都市を有する．そのうち，吉林省，黒竜江省の都市化のレベルは，はるかに全国の平均レベルを凌いでいる．山西省（21.01%）は全国の平均レベルよりやや高く，湖南省，広東省，広西チワン族自治区は都市化の全国平均レベルより低い．

(c) 比較的高い地区：2つの自治区を除いていずれも，都市化のレベルは全国平均より低い．

(d) 高い地区：青海省，寧夏回族自治区を除いて全て都市化のレベルは全国平均より低い．安徽省の外に都市は19しかない．その中でも大都市はわずか2つである．都市の数は明らかに少なくなっている．

(e) 特に高い地区：チベットは都市化のレベルがはるかに全国平均レベルより低く，都市の数は全国の最低位を占めている．地理的条件から，都市の発展は難しい．

文盲・半文盲率を従属変数（Y），都市人口に占める非農業人口の比率を独立変数（X）として相関関係を見ると，以下の回帰直線になる．

$$Y=58.356-0.440X \tag{2.3}$$

（図8）

ここで，2変数相関係数は $r=-0.60$ で，検定すると

$$t=\frac{\sqrt{27}\cdot(0.604)}{\sqrt{1-(0.604)^2}}=3.94$$

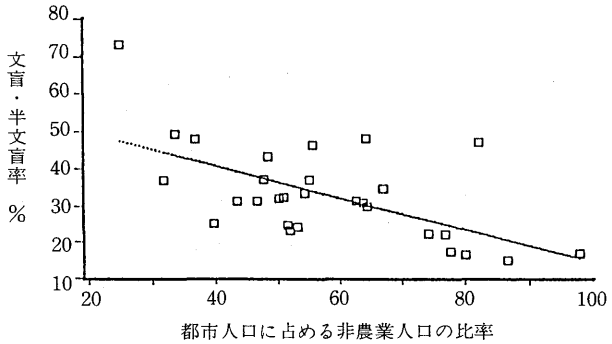

図 8.　文盲・半文盲率と地区別都市非農業人口の比率の関係.

であり，5% 水準で有意となる.

表 6 から，文盲・半文盲率と都市化のレベルがある程度関係があることが分かる．都市は科学技術と文化教育の中心であり，知力開発，人材養成と輸出の重要な基地である．したがって農村が中・小都市に発展するにつれて教育水準もおのずから高まると考えられる.

2.2.5　農業発展のレベルについて

中国の農業生産はおよそ 8,000 年にわたる長い歴史を持ち，紀元前 5～6 世紀の頃にはすでに農業は粗放的な耕作から精細な耕作へと移り変わり，生産と経営において，少なからぬ発明と創造があった．ところが，戦国時代以降，2,000 年にわたる時期には，生産技術の大きな進歩は見られず，農業の技術レベルは基本的に停滞状態にとどまった．遅れた小作経営によって，人々が伝統的生産技術と低効率方式にあまんじてしまった．そして，農業従事者の教育水準も極めて低いという結果を生み出したのである.

統計によると，1950 年の中国総人口は 5.5 億人であって，そのうち農民が 84% ぐらいを占め，4.6 億人であった．1982 年には総人口は 10.08 億人になり，そのうち農民が 80% ぐらいを占め，8.02 億人であった．この間の年平均増加数は 1,387 万人で，そのうち農民は 1,129 万人を占めた（表 7）（張 編（1983））．しかし，この期間の農村の 1 人当りの食糧の生産量は殆ど変わらなかった．表 8 のように，1952 年は 1,893 斤，1957 年は 2,020 斤，1965 年は 1,663 斤，1976 年は 1,943 斤，豊作の 1982 年でさえも 2,211 斤にすぎなかった．大体において，2,000 年前の漢の時代のレベルにとどまっていたことになる（胡・張（1984））.

中国では，農業労働力の供給を子供の出生に仰ぐ傾向が強い．農村人口の増加速度と農村人

表 7.　中国の都市，農村の人口構成　（単位：万人）.

年	総人口（万人）	都市総人口		農村総人口	
		人口	比率（%）	人口	比率（%）
1949	54,167	5,765	10.6	48,402	89.4
1953	58,796	7,826	13.3	50,970	86.7
1964	70,499	12,950	18.4	57,549	81.6
1982	101,541	21,154	20.8	80,387	79.2
1990*	113,368	29,651	26.2	83,717	73.8

* 1990 年のデータは『人民日報』(1990) による．他のデータは国家統計局（1986）による.

表8.　1人当りの食糧生産量(1斤＝0.5 kg)
(胡・張(1984)による).

年	生産量(斤)
1952	1893
1957	2020
1965	1663
1976	1943
1982	2211

食糧は米，小麦，玉米，高粱，谷子，大豆などを含む.

口の占めている比率が大きいことは，機械化がそれだけ遅れたことを意味し，中国の農村の生産力がそれほど上昇しなかった理由と言える.

中国の総耕作面積は15億畝(1 ha＝15畝)であり，1人当りわずか1.5畝で，世界の1人当り平均4畝の37%にすぎない.限られた耕地の上に伝統的耕作道具で働く生産方式が変わらないかぎり，限界生産力逓減の原理によって，同じ土地から得られる1人当りの生産量は低下せざるを得ないであろう.

つまり，図9のように，100万人から1人増やした場合と5人から1人増やした場合と比べれば，後者の方が前者の方より効用の増加分がずっと大であるということである.念のために言えば，これは，次の式で表わされる

$$u(x)=k\log x \qquad (k>0)$$

(松原(1977)).

1982年の人口センサスの結果によると，文盲・半文盲の92%が農村にいる.そのうち，新中国になってからの「新文盲・半文盲」は95.5%が農村で生まれている.農村における文盲・半文盲率の平均は34.74%で，都市の平均2倍以上になっている.農業，水産業に従事している人のうちで大学卒の学歴を持つ人は，わずか0.04%である.中学校程度の学歴を持つ人は，5.4%であるが，文盲・半文盲は35.9%を占める(李(1987)).

表9より文盲・半文盲率が低い地区(a)と，比較的低い地区(b)は，農村の文盲・半文盲率も比較的低く，19.63～26.46%で，農村全体の平均より低い.

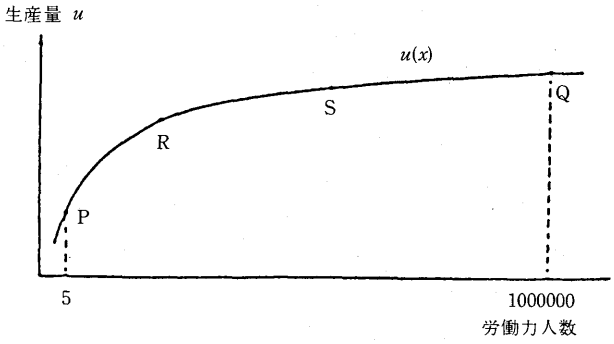

図9.　ある生産量曲線(Q点は本来はさらに遠方にある)P, Qにおける接線の勾配を比べれば，1人の増加に対する生産量の増分を比較できる.

表 9.　農村の文盲・半文盲率の状況*.

グループ	地区数	全体の文盲・半文盲率（平均％）	農村の文盲・半文盲率（平均％）
a	4	11.28	22.99
b	6	14.35	25.26
c	12	18.38	35.49
d	6	21.08	51.08
e	1	26.80	76.15

* 1982 年の人口センサスをもとに作成.

比較的高い地区 (c) は，農村の文盲・半文盲率もやや高く，31.80～39.69% で，農村全体の平均値ぐらいである.

高い地区 (d) は農村の文盲・半文盲率も高く，約 50% で，農村全体の平均よりずいぶん高い.

特に高い地区 (e) は，農村の文盲・半文盲率も最も高く，76.15% で，農村の平均より 2 倍以上高い．ここでの農，牧民は依然原始的生産方式で働いている.

文盲・半文盲率を従属変数（Y），農村人口の比率を独立変数（X）として，相関関係を分析すれば，次の回帰直線になる.

$$Y=-5.304+0.512X \tag{2.4}$$

（図 10）

ここで，2 変数の相関係数は $r=0.64$ で，検定すると

$$t=\frac{\sqrt{27}\cdot(0.636)}{\sqrt{1-(0.636)^2}}=4.28$$

は 5% の水準で有意となる.

ここから農村の文盲・半文盲の多さが及ぼす影響がよく見える.

中国全体のレベルを高めるには，農民の教育レベルを高めておかねばならない．現在，中国では，4 つの近代化を目指しているが，農業の近代化の問題は依然として基本的問題である．農民は大海のように中国の各地区に分散している．農民の教育レベルが高められないかぎり，中国の教育レベルが低いという現状が根本的に変えられるはずはない.

2.2.6　性別について

一般に中国の教育レベルは低く，女性の教育レベルはさらに低い．1982 年の統計によれば，全

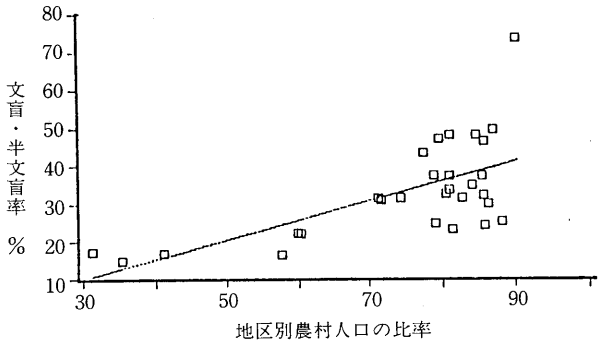

図 10.　文盲・半文盲率と農村人口の比率の関係.

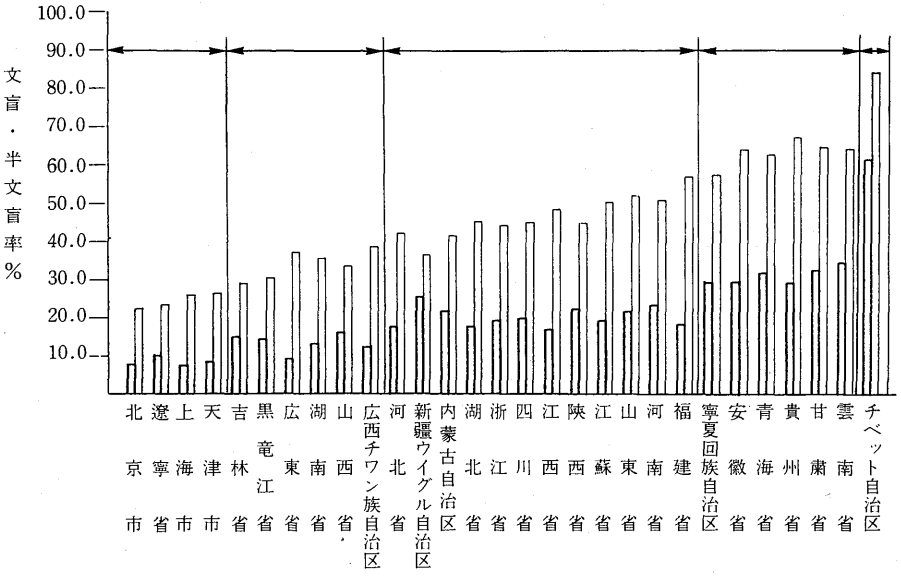

図11. 1982年人口センサス結果による省，市，自治区別，性別文盲・半文盲率のグラフ．細線が女性，太線が男性を表わす．

国の文盲・半文盲2億3,772万人のうち，女性の文盲・半文盲は1億6,453万人で，69.2%を占めている．図11から分かるように各省，市，自治区において，女性の文盲・半文盲の割合はつねに大幅に男性を凌いでいて，問題となっている．

全国の平均文盲・半文盲率は31.87%で，男性では19.15%，女性では45.23%を占めている．都市の平均文盲・半文盲率は16.42%であって，男性では8.86%，女性では24.57%である．農村の平均文盲・半文盲率は34.74%で，男性では21.09%，女性では49.01%である．少数民族の平均文盲・半文盲率は42.54%であって，男性では29.66%，女性では55.85%を占めている．これらのデータが示しているように，文盲を一掃し，基礎教育を普及させる中で，特に女性の教育に力を注ぐ必要がある．女性のほうが文盲・半文盲率が高いということは，男性を重んじ，女性を軽んじるという古い思想が依然として深く根ざしていることを物語っている．この現象は，農村において特にはなはだしい．女性の文盲・半文盲の数がこれほど多いことは，教育水準を全体的に高めることに極めて不利な影響をもたらしている．女性の文盲・半文盲の中で，8,859万人が出産適齢女子で，出産適齢女子総数の35.65%を占めている．これらの女性自身が字を読めないから，その子供にたいする教育に万全の注意が払えない．一般的に言えば，教育レベルの高い人は，その子女の智力開発に力を入れるものであり，彼女らが重視するのは，子女の質である．つまり，教育レベルの低い人，知識のない人は，その子女の教育レベルにたいする要求は低く，多くの子供をほしがり，特に男の子がほしいという希望が強い．この理由は，中国農村の近代化の程度が低く，農村家庭の経済収入の決定的要素は，労働力の質ではなくてその量だからである．中国の女性の出産率と教育レベルとの間には，緊密な負相関の関係がある（相関係数 $r=-0.98$（図12，林（1987））．

表10から，男女を問わず年齢が低ければ低いほど，文盲・半文盲率は低いことが分かる．言うまでもなく，これは基礎教育の普及による成果である．『当代中国的人口』(1988) には，年齢別に女性の文盲・半文盲率から男性の文盲・半文盲率を単純に引き算して，その差が若年化するほど小さくなることより，男女差がだんだんなくなったと書かれている．しかし，この見方

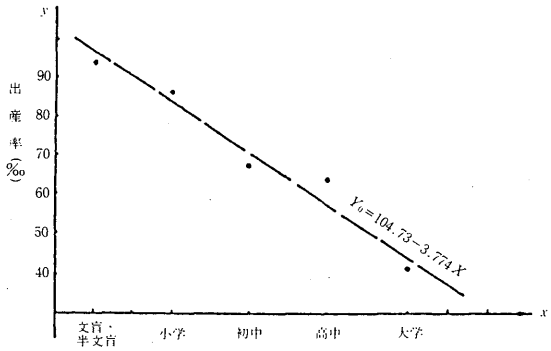

図 12.　出産率と教育水準の関係（林（1987））.

は間違っていると思う．この差は，ただ表面上の絶対的数量の差であるだけであって，本質的に男女の格差を反映していないからである．

この問題を吟味するために，表 10 の中から，いくつかの年齢階級を選んで考えてみよう．表 11 のように，15～19 才の文盲・半文盲では，女性は男性の 3.47 倍，35～39 才では 3.06 倍，55～59 才では 1.89 倍となっている．すなわち，年齢が低ければ低いほど，男女の差は大きくなることが現れている．つまり，『当代中国的人口』（1988）に書かれているように，若年化すると男女差が減少するのではなく，逆に差は拡大するのである．

この結果は，中国の基礎教育の普及の程度がまだ低い段階にとどまっていることを物語っている．一般的に言えば，教育の立ち遅れた国では，基礎教育の普及の過程で男女の格差が拡大するという現象が現れる．

文盲・半文盲率を従属変数（Y），女性 1,000 人当りの小学校以上の学歴を持つ人の延べ教育年数を独立変数（X）として，相関関係を分析すれば，次の回帰直線になる．

表 10.　中国における性別，年齢別文盲・半文盲人口（国務院人口普査弁公室（1985））.

年　齢	12 才以上の人口			文盲・半文盲人口			文盲・半文盲が 12 才以上の人口に占める百分比（%）		
	合　計	男	女	合　計	男	女	合計	男	女
合　計	745,927,105	382,204,755	363,722,350	237,720,787	73,195,405	164,525,382	31.87	19.15	45.23
12 才	26,487,340	13,614,655	12,872,685	2,536,478	718,902	1,817,576	9.58	5.28	14.12
13	28,239,541	14,522,190	13,717,351	2,777,254	763,599	2,013,655	9.83	5.26	14.68
14	24,538,256	12,638,809	11,899,447	2,442,581	667,589	1,774,992	9.95	5.28	14.92
15～19	125,366,344	63,804,582	61,561,762	11,772,785	2,707,431	9,065,354	9.39	4.24	14.73
20～24	74,363,019	37,880,115	36,482,904	10,650,159	2,164,753	8,485,406	14.32	5.71	23.26
25～29	92,563,879	47,746,254	44,817,625	20,741,276	4,562,042	16,179,234	22.41	9.55	36.10
30～34	72,958,238	37,930,240	35,027,998	19,120,988	5,001,984	14,119,004	26.21	13.19	40.31
35～39	54,221,634	28,565,684	25,655,950	15,184,340	4,050,156	11,134,184	28.00	14.18	43.40
40～44	48,437,939	25,827,567	22,610,372	18,754,087	5,774,268	12,979,819	38.72	22.36	57.41
45～49	47,403,329	25,073,116	22,330,213	24,707,848	8,082,137	16,625,711	52.12	32.23	74.45
50～54	40,815,502	21,528,988	19,286,514	25,169,733	8,741,025	16,428,708	61.67	40.60	85.18
55～59	33,894,328	17,493,924	16,400,404	23,020,655	8,302,250	14,718,405	67.92	47.46	89.74
60 以上	76,637,756	35,578,631	41,059,125	60,842,603	21,659,269	39,183,334	79.39	60.88	95.43

表 11.　性別, 年齢別の文盲・半文盲率の格差　(1982 年の人口センサス結果による).

年齢（才）	文盲・半文盲率		女性／男性
	男性	女性	
15～19	4.24	14.73	3.47
20～24	5.71	23.26	4.07
25～29	9.55	36.10	3.78
30～34	13.19	40.31	3.06
35～39	14.18	43.40	3.06
40～44	22.36	57.41	2.57
45～49	32.23	74.45	2.31
50～54	40.60	85.18	2.10
55～59	47.46	89.74	1.89
60 以上	60.88	95.43	1.57

$$Y=66.412-0.018X \tag{2.5}$$

(図 13)

ここで，2 変数の相関係数は $r=-0.91$ で，検定すると

$$t=\frac{\sqrt{27}\cdot(0.909)}{\sqrt{1-(0.909)^2}}=11.33$$

となり，5% の水準で有意となる．

以上の分析の結果から分かるように, 文盲・半文盲率は女性の教育水準とかなり関係がある．男女の差別問題は，ただ文盲・半文盲だけの問題ではなく，他にも原因が考えられるが，ここでは本論の目的から離れるので，論じない．

2.2.7　その他の要因について

a.　政治的要因

中国の教育事業の発展がこれほど遅く，教育水準がこれほど低いことは，政策の問題と緊密な関連がある．

建国以来，政治的動乱はたえまなく，特に大衆的文化大革命においてクライマックスとなった．10 年にわたる文化大革命で，1965 年に 434 校あった大学は 1971 年には 328 校と激減して，

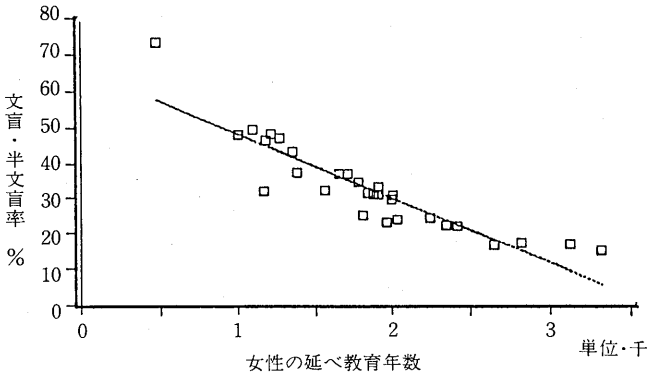

図 13.　文盲・半文盲率と女性の教育水準の関係.

わずか6校の政法大学は全て廃止された．18校の財経大学は2校しか残らなかった．大学の新入生募集停止は4年間も続き，1977年になって初めて，大学の共通試験が回復された．

修士課程の募集は12年も中断されていた．1965年，全国において普通中学校は18,102校，各種専門学校，職業技術学校，農業中学校を全て合計すると61,626校があったが，1967年から1976年にかけて，各種専門学校，農業中学校は全て廃止された．成人教育もまた消失した．学齢児童の入学率は下がり，学生の流動率が上がり，校舎は占拠され，教師は不足し，教育の質に重大な影響があった．1968～1976年の間，1,500万人の中学生は“山に上がり，郷に下がる”道を歩み，貧農，下層中農からの再教育を受けたが，この間の損失には大きなものがあった．見積れば，文化大革命の10年間に中国では，何万人もの博士課程と修士課程の学生，及び100万人以上の合格可能だった大学生，200万人以上の専門学校の学生の育成が犠牲になった（趙(1985)）．

1976年に文化大革命が終わって，人々は基礎知識の重要性を再認識した．特に，1978年12月，中国共産党11期全国大会，第3回総会の開催以来，政策の重点は経済建設重視型に変わり，同時に教育の地位と役割も徐々に高く評価されるようになった．しかし，他方において計画経済を緩め，市場経済を指向した政策の誘導の下で，一種の新しい“読書無用論”の傾向も出てきている．

統計によれば，1988年に普通各級各類学校を中退した学生は，757.7万人にのぼり，1986～1987年の間に小学校を中退した学生は，4,000万人にもなり，そのうち75%の学生は「童工」，「童農」，「童商」となってしまった（包（1989））．北京地域では1988年に修士課程に応募した人数は，例年より1,000人も少なくなり，博士課程に応募した人数は，定員を下回る現象が現れた．なお，1985年以来，脱盲（文盲から脱すること）人数は年ごとに下がり，これまでは毎年約600万人が脱盲できたが，1987年には，158万人にすぎなかった（韓（1989））．

この問題を解決するには，国家レベルで能率的な政策を作らなければならない．数回にわたる調査が表わしているように，中，小学校卒の給与水準は最低である．事務労働者と肉体労働者の給与比率は，0.94：1であって，事務労働者の収入は肉体労働者に及ばない（韓（1989））．特に中年の事務労働者は，同じ年齢の人の中でも勉強する時間が長ければ長かったほど，それだけ収入が減少している．事務労働者の報酬はその社会に与えた貢献より，はるかに低い．この極めて不合理な現象は，中国の社会の進歩に非常に悪い影響をもたらすものであろう．

b.　都市化水準と行政管理機能の強さ

1982年の統計によれば，人口が集中している地点は2,819地点あり，そのうち農村が91.3%を占めている．人口が非常に大きく分散している中国で，政策を全ての人間に伝達することは相当難しい．

中国では，都市の行政管理機能が強ければ強いほど，基礎教育の普及の程度が高いと考えられている．そこで，都市化レベルを基礎として，各地区政策の実行状況を5段階評価することにする．第1類地区は3つの直轄市であり，都市化レベルが最も高いことより5点，第2類地区は東北3省であり，都市化レベルが比較的高いので4点，第3類地区は都市化レベルが第1類，第2類地区より低く，全国の平均都市化レベルより高いので3点，第4類地区は全国の平均都市化レベルより低いので2点，第5類地区はチベット自治区であって，ここは都市化レベルが最も低いので1点とする（表12）．

図1から分かるように，銀貴線以西の地区はいずれも，点数が低い地区である．それにひきかえ，点数が高い地区は，いずれも，銀貴線以東の東北及び沿海地区にある．全体から見れば，文盲・半文盲率の高い地区は，点数が低い地区であって，文盲・半文盲率が低い地区は，点数が高い地区であると言えよう．

表 12. 都市化水準と行政管理機能の強さ.

地 区	都市人口の割合 (%)	地 名	行政管理機能の評価 (5点制)
第1類地区	58.81-68.70	北京, 上海, 天津	5
第2類地区	39.63-42.36	遼寧, 吉林, 黒竜江	4
第3類地区	21.01-28.85	山西, 内蒙古, 浙江, 福建, 寧夏, 新疆	3
第4類地区	11.83-20.48	河北, 江蘇, 安徽, 江西, 山東, 河南, 湖北, 湖南, 広東, 広西, 四川, 貴州, 雲南, 陝西, 甘粛, 青海	2
第5類地区	9.61	チベット	1

注: 行政管理機能の評価の点数は, 都市人口の割合によって求めた.

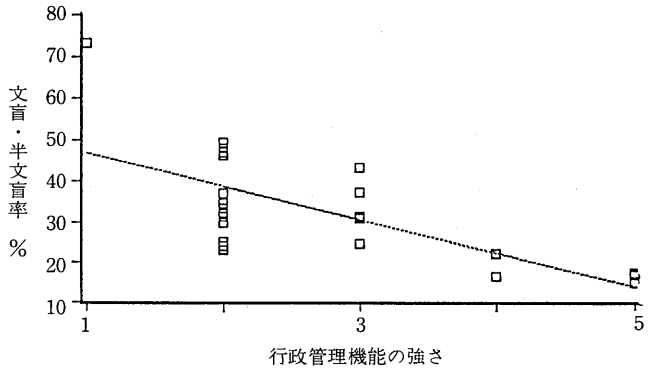

図 14. 文盲・半文盲率と行政管理機能の強さの関係.

文盲・半文盲率を従属変数 (Y), 都市化レベルによって作った点数を独立変数 (X) として, 相関関係を分析すれば, 次の回帰直線になる.

$$Y=55.319-8.306X \tag{2.6}$$

(図 14)

ここで, 2変数の相関係数は, $r=-0.70$ で, 検定すると

$$t=\frac{\sqrt{27}\cdot(0.699)}{\sqrt{1-(0.699)^2}}=5.08$$

となり, 5% の水準で有意となる.

以上の分析の結果から分かるように, 文盲・半文盲率は都市化レベルによる行政管理機能の強さと関係があることは説明できるであろう.

3. いくつかの問題

3.1 文盲の定義について

1953年3月29日, 国務院文盲一掃活動委員会が, "文盲一掃に関する決定" を中国共産党中央と国務院の決定として発表した. それによれば, 幹部と労働者は常用字2,000字全てが分か

り，一般的な書籍・新聞が読め，200～300 字の短い実用文が書ける．農民は常用字 1,000 字が分かり，一般的な書籍・雑誌がだいたい読め，農村で普段使われる通知や領収書などが書ける．都市部勤労人民は常用字 1,500 字が分かり，読み書きは労働者・農民の別に照して判断する，となっている（中国中央国務院（1957））．そして，この規準に達しない者を文盲とするのである．明らかに，この定義は統一性に欠けている．異なった職業，異なった地区ごとに文盲を定義することは，本来から言えばおかしなことである．

1982 年の人口センサスは文盲の概念にたいして新たに定義を与えた（第 1 章参照）．この定義は 1953 年の定義の欠点を修正して，各地区の文盲・半文盲の定義を統一するようにしたものである．中国は国土が大きく，人口も多いうえに広汎に分布しており，少数民族地区の分散性も強い．しかしながら，用いている標準が一致していないなら，分析結果の比較が難しくなる．

なお，小学校卒の学歴を持たない人も 1 つの問題である．学歴を持たない人に関しては，信頼性のある調査の結果は出てこない．

さらに，少数民族地区はしばしば自らの民族言語を持っているが，多くの少数民族は中国の共通語である漢語をも使っている．しかし，いくつかの少数民族，特に，自らの民族言語も持たない民族については，いかにして文盲・半文盲を定義付けるかが問題として残る．

3.2　李成瑞の文盲の予測についての疑問

李（1987）では，文盲について，以下の予測がされた．“大いに教育事業を発展させることによって，この世紀末頃に，基本的に 50 才以下の文盲を撲滅することができる（総人口にたいする文盲率を 10% 以下に下げること）”．

上述の目標を達成するには，統計資料を基礎とする具体的方策を作らなければならない．残念ながら確実な資料がないので，ここではざっと分析してみよう．表 10 によって文盲・半文盲を 3 つのグループに分ける．12～34 才を第 1 グループ，35～59 才を第 2 グループ，60 才以上を第 3 グループとすれば，今世紀末頃には，第 1 グループの人は 30～52 才で，7,004 万 1,521 人，第 2 グループの人は 53～77 才で，1 億 683 万 6,663 人，第 3 グループの人は 78 才以上の人で，6,084 万 2,603 人となる．

中国人の平均寿命は 67.9 才（1982 年第 3 回人口センサスの資料）であるから，第 3 グループについては考慮する必要はない．第 2 グループの人は高年齢であるから，脱盲の効果は期待できない．第 1 グループの人では，著しい効果はあるが，52 才以下の文盲・半文盲をこの世紀の末頃に撲滅することは，それ程容易なこととは思えない．

1989 年 11 月に開かれた全国文盲一掃工作会議の資料では，中国成立後，合計 1 億 5,000 万の人々が文盲から脱したと記されている．ということは，毎年平均 385 万人，文盲・半文盲がなくなったことになる．もし，「新文盲・半文盲」は零としても，10 年間に全て一掃しようとすれば，毎年少なくとも 700 万人の文盲・半文盲をなくさなければならない．そうすれば，この世紀末頃に文盲・半文盲率が 10% 以下に下がる可能性はある．決まった数字に基づいて，強制的に基礎教育を普及し文盲を一掃しないかぎり，前述の目標に達することは難しいように思われる．

3.3　流動人口問題

中国第 4 回人口センサス工作会議で，1990 年 7 月 1 日に第 4 回人口センサスを行なうことが決定されている．

ところが，第 4 回人口センサスは，1 つの新しい問題に直面している．これは，流動人口の問題である．1989 年 12 月 9 日の『人民日報』によると，中国は，目下，6,000～8,000 万人もの流

動人口を抱えている．これらの流動人口は大抵農村から都市へ流れるものであって，一般的に文化程度が低い．これらの人々の文盲・半文盲人口をいかにして正しく調査するかは新しい課題となるであろう．

4. 結　　び

以上の分析から分かるように中国の文盲・半文盲問題は単独の原因に起因するものではない．地理的環境の差，経済，教育，都市化レベルの差，農村における教育の立ち遅れ，男を重んじ，女を軽視する古い考え方，政治的要因など，中国における文盲・半文盲を多く残している原因にはさまざまなものがある．

中国は，最も早く文字を発明し使用した古代文明国の1つであって，古い歴史を誇った漢字は商の時代から今に至るまで使用されてきていて，それが絢爛たる“古代文明”の1つとなっている．現在のおびただしい文盲・半文盲の存在は，古代文明国としての誇りを失わせるものである．ここにわれわれが問題の深刻さを受け止め，文盲・半文盲の一掃に努力を尽くすことが切に望まれる由縁がある．

謝　　辞

本論文の作成に当り，多くの方々から指導と援助を賜った．厚生省人口問題研究室の若林敬子先生と文部省統計数理研究所の村上征勝先生にも，文献の紹介をはじめ本論文の内容に関して多くの助言をいただいた．また，東京理科大学の松井健至氏，田尻展也氏には，コンピュータの使用法等について教えていただいた．ここに，心から感謝の意を表わしたい．なお，本論文の査読者にも，多くの指摘をいただいている．末記ながら明記し，同じく深甚なる感謝の気持ちを表わしたい．

注

注1. 1988年4月13日，第7期全人代第1回会議は，海南省の設立を決定した．

注2. 沿海地区とは遼寧，北京，天津，河北，山東，江蘇，上海，浙江，福建，広西，広東の各省である（胡・張（1984））．

注3. 筆者は内蒙古，新疆，チベット，甘粛，青海，寧夏，四川，雲南，貴州を銀貴線の“西部地区”と呼ぶ．

注4. 内地とは黒竜江，吉林，山西，安徽，江西，河南，湖北，湖南，四川，貴州，雲南，陝西の各省である（胡・張（1984））．

注5. 辺遠地区とは内蒙古，チベット，甘粛，青海，寧夏，及び新疆の各省，自治区である（胡・張（1984））．

注6. 教育基本建設とは，教育部門の固定資産の新設，改造，回復を言う．

注7. 小学校は6年，普通中学校は6年，大学は4年，大学院は2年制である．なお，中等技術学校は入学年齢，修学年数がまちまちであり，『中国統計年鑑』所収の統計から除外されている．ここのデータは中国教育部計画財務司 編（1984）．

注8. 1,000人当りの小学校以上の学歴を持つ人の教育年数は（小学校の人数）×6（年），（初中の人数）×9（年），（高中の人数）×12（年），（大学中退あるいは在校の人数）×14（年），（大学卒業の人数）×16（年）になる．

参 考 文 献

包　国慶（1989）．教育与経済相互促進的設想――教育経済系統的網絡分析――，教育研究，第 **12** 期，p. 65，中央教育科学研究所 編，教育科学出版社，北京．

費　孝通（1986）．『論小城鎮及其他』，天津人民出版社，天津．

韓　常林（1989）．脳力労働与体力労働収入倒挂，有碍人口文化科学素質的提高，人口研究，第 **4** 期，p. 27，p. 29，『人口研究』編輯部 編，中国人民大学出版社，北京．

胡　煥庸，張　善余（1984）．『中国人口地理』，上冊，華東師範大学，上海．

李　成瑞（1987）．『中国人口普査和結果分析』，中国財政経済出版社，北京．

林　富徳（1987）．中国生育率転変的因素分析，『人口与発展』，p. 411，中国人民大学人口理論研究所，北京．

劉　錚，鄔　滄萍，査　瑞伝（1980）．『人口理論教程』，中国人民大学出版社，北京．

柳　随年，関　群敢（1985）．『中国社会主義経済簡史』，黒竜江人民出版社，黒竜江．

マルクス，K.，エンゲルス，F.（1980）．『馬克思，恩格斯全集』，第 46 巻（下），中国人民出版社，北京．

松原　望（1977）．『意思決定の基礎』，朝倉書店，東京．

秦　品端（1987）．安徽省人口文化素質浅析，『人口与発展』，p. 586，中国人民大学人口理論研究所，北京．

若林敬子（1989）．『中国の人口問題』，東京大学出版会，東京．

王　樹林．『人口智力開発因素的利用与経済的発展』．

張　純元 主編（1983）．『人口経済学』，北京大学出版社，北京．

趙　徳馨（1985）．『中華人民共和国経済史』（1967～1984），河南人民出版社，河南．

朱　鉄臻 主編（1987）．『中国城市手冊』，経済科学出版社，北京．

国家統計局（1985）．『中国統計年鑑』，中国統計出版社，北京．

国家統計局（1986）．『中国統計年鑑』，中国統計出版社，北京．

国家統計局（1989）．『中国統計年鑑』，中国統計出版社，北京．

国家統計局人口統計司（1989）．『中国人口統計年鑑』，科学技術文献出版社，北京．

国務院人口普査弁公室，国家統計局人口統計司（1985）．『中国一九八二年人口普査資料』，中国統計出版社，北京．

上海師範大学 他（1980）．『中国経済地理』，上冊，華南師範学院地理系，広東．

中国教育部計画財務司 編（1984）．『中国教育成就』（1949～1983），人民教育出版社，北京．

中国研究所（1980）．『新中国年鑑』，大修館書店，東京．

中国社会科学院人口研究所，『中国人口年鑑』編輯部（1985）．『中国人口年鑑』，中国社会科学出版社，北京．

中国中央国務院（1957）．関與掃除文盲的決定（1956 年 3 月 29 日），『人民手冊』，北京．

『人民日報』（1990）．1 月 9 日，海外版，第一版，人民日報出版社，北京．

『中国・現況と動向シリーズ』（1987）．① 国土と資源，北京外文出版社，北京．

付録1. 1982年センサス結果による省，市，自治区別結果一覧

地区別	総人口（人）	総人口に占める（%） 男	女	人口密度（人/km²）	農工業生産総額（億元）	1人当りの農工業生産額（元）	経済活動中第2次産業人口の比率（%）	都市農村別人口比 都市（%）	農村（%）	少数民族の人口比（%）	行政管理機能の強さ（5点制）	都市の非農業人口の比率（%）
全国総数	1,031,887,961			—				—	—	—		
大陸29省，自治区，直轄市，現役軍人合計	1,008,180,738	51.5	48.5	105	8,206.60	814	16.3	20.55	79.45	6.70		57.73
北京市	9,230,663	50.6	49.4	549	249.63	2704.4	30.0	64.68	35.32	3.49	5	86.6
天津市	7,764,137	50.8	49.2	687	232.96	3000.5	40.3	68.70	31.30	2.11	5	77.6
河北省	53,005,507	51.2	48.8	282	365.24	689.1	15.3	13.69	86.31	1.61	2	64.6
山西省	25,291,450	52.0	48.0	162	197.08	779.2	21.7	21.01	78.99	0.25	3	51.6
内蒙古自治区	19,274,281	52.2	47.8	16	117.05	607.3	20.0	28.85	71.15	15.55	3	62.8
遼寧省	35,721,694	51.0	49.0	245	566.66	1586.3	38.8	42.36	57.64	8.14	4	80.0
吉林省	22,560,024	51.2	48.8	120	204.60	906.9	33.1	39.63	60.37	8.10	4	76.8
黒竜江省	32,665,512	51.2	48.8	69	364.11	1114.7	33.7	40.14	59.86	4.93	4	74.0
上海市	11,859,700	49.8	50.2	1913	675.36	5694.6	43.6	58.81	41.19	0.42	5	97.7
江蘇省	60,521,113	50.8	49.2	590	737.23	1218.1	19.8	15.82	84.18	0.18	2	67.0
浙江省	38,884,593	51.9	48.1	382	368.30	947.2	15.8	25.71	74.29	0.40	3	43.5
安徽省	49,665,947	51.9	48.1	356	270.11	543.9	10.7	14.16	85.84	0.53	2	55.7
福建省*	25,872,917	51.4	48.6	213	149.99	579.7	14.7	21.18	78.82	0.96	3	47.8
江西省	33,185,471	51.6	48.4	199	184.29	555.3	14.5	19.45	80.55	0.07	2	51.0
山東省	74,419,152	50.7	49.3	486	593.50	797.5	12.6	19.07	80.93	0.55	2	32.0
河南省	74,422,573	51.0	49.0	446	386.63	519.5	10.8	14.47	85.53	1.07	2	55.1
湖北省	47,808,118	51.3	48.7	255	409.74	857.1	15.1	17.32	82.68	3.72	2	46.7
湖南省	54,010,155	51.9	48.1	257	339.35	628.3	11.4	14.21	85.79	4.06	2	53.3
広東省	59,299,620	51.1	48.9	280	414.99	699.8	13.4	18.62	81.38	1.79	2	51.9

地区別	総人口（人）	総人口に占める（%） 男	女	人口密度（人/km²）	農工業生産総額（億元）	1人当りの農工業生産額（元）	経済活動中第2次産業人口の比率（%）	都市農村別人口比 都市（%）	農村（%）	少数民族の人口比（%）	行政管理機能の強さ（5点制）	都市の非農業人口の比率（%）
広西チワン族自治区	36,421,421	51.8	48.2	158	173.83	477.3	8.3	11.83	88.17	38.26	2	39.9
四川省	99,713,246	51.6	48.4	176	534.63	536.1	10.9	14.27	85.73	3.67	2	50.2
貴州省	28,552,942	51.3	48.7	162	101.89	356.8	9.3	18.92	81.08	26.01	2	36.8
雲南省	32,553,699	50.7	49.3	83	144.94	445.2	9.6	12.95	87.05	31.70	2	33.6
チベット自治区	1,892,224	49.4	50.6	1.6	7.42	392.1	6.0	9.61	90.39	95.15	1	25.0
陝西省	28,904,369	51.8	48.2	141	176.22	609.7	16.8	19.00	81.00	0.46	2	54.3
甘粛省	19,569,191	51.7	48.3	43	112.76	576.2	14.2	15.34	84.66	7.92	2	64.4
青海省	3,895,695	51.5	48.5	5	22.90	587.8	19.9	20.48	79.52	39.42	2	82.0
寧夏回族自治区	3,895,576	51.5	48.5	59	21.88	561.7	18.5	22.49	77.51	31.94	3	48.4
新疆ウイグル自治区	13,081,538	51.5	48.5	8	83.31	636.9	16.4	28.40	71.60	59.59	3	63.9
解放軍の現役軍人	4,238,210	97.4	2.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
台湾省	18,270,749	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
香港・澳門地区	5,378,627	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注：* 内金門・馬祖諸島の人口の57,847人を除く．
(1) 総人口：性別比率は『中国統計年鑑』1986年版による．1982年末のデータである．
(2) 人口密度，農工業生産総額，都市農村別人口比：『中国統計年鑑』1983年版による．1982年末のデータである．
(3) 1人当りの農工業生産額は総人口，農工業生産総額から求められた．
(4) 経済活動中第2次産業人口の比率（1981年），少数民族の人口比率（1982年）は胡煥庸，張善余 編著『中国人口地理』上冊による．
(5) 経済の行政機構の機能評価は本論文2.2.7の内容から求められた．
(6) 都市における非農村人口の比率は国家統計局総合司 編『中国城市統計年鑑』1985年版による．（チベットのデータは『中国城市手冊』，『中国分省市概況手冊』から求められた．）

付録2. 都市人口（非農業人口，及び文盲を中心にした）一覧表

都市名	総人口（万人）	非農業人口（万人）	非農業人口の割合（%）	一万人当りの大学生数	12才以上の文盲・半文盲の割合（%）
北　京**	555.0	477.0	85.9	587	10.2
天　津**	513.0	392.0	76.4	237	12.7
河北省	662.41	445.32	67.2	183	13.1
石家庄*	107.0	84.5	79.0	312	11.3
邯　鄲*	92.0	67.6	73.5	152	15.1
唐　山*	133.3	88.7	66.5	108	14.5
邢　台	34.29	25.14	73.3	180	11.9
保　定	52.28	41.13	78.7	253	10.3
張家口	60.79	48.32	79.5	153	13.7
承　徳	32.58	22.26	68.3	152	13.7
秦皇島	42.53	29.39	69.1	143	12.7
倉　州	28.70	19.08	66.5	164	15.6
廊　坊	50.95	11.33	22.2	140	15.2
衛　水	27.99	7.87	28.1	260	9.7
山西省	466.49	282.41	60.5	130	14.7
太　原**	175.0	128.0	23.1	234	12.3
大　同*	89.6	60.5	67.5	78	18.2
陽　泉	47.41	29.14	61.5	61	17.0
長　治	45.14	26.12	57.9	118	15.4
榆　次	41.54	16.86	40.6	122	15.0
臨　汾	52.13	15.19	29.1	198	11.2
侯　馬	15.67	6.60	42.1	98	13.8
内蒙古	379.47	257.41	67.8	137	14.6
呼和浩特*	74.7	51.5	68.9	290	16.7
包　頭*	104.2	85.3	81.9	142	12.4
烏　海	25.75	22.66	88.0	73	17.1
集　寧	15.84	14.10	89.0	154	14.3
二連浩特	0.68	0.67	98.5	163	12.3
赤　峰	86.53	27.03	31.2	138	14.3
通　遼	24.73	18.44	74.6	165	14.1
海　爾	17.31	14.90	86.1	124	13.5
満州里	11.18	10.41	93.1	52	15.3
烏蘭浩特	18.55	12.40	66.9	71	16.4
遼寧省	1237.72	979.68	79.2	136	11.1
瀋　陽**	402.0	303.0	75.4	201	10.5
大　連**	148.0	124.0	83.8	38	10.9
鞍　山**	121.0	103.0	85.1	157	10.3
撫　順**	119.0	104.0	87.4	132	12.4
本　溪*	78.8	65.4	83.0	112	11.7
錦　州*	71.2	55.2	77.5	193	10.6
阜　新*	63.6	53.4	84.0	109	12.4
丹　東	56.05	44.98	80.3	136	12.3
営　口	46.54	35.57	76.4	112	11.3
遼　陽	56.53	43.01	76.1	165	8.4
朝　陽	30.83	16.82	54.6	192	11.0
鉄　嶺	44.17	31.30	70.9	163	9.7
鉄　法	—	—	—	53	12.7
吉林省	479.6	360.98	75.3	175	13.3
長　春**	174.0	134.0	77.0	300	12.2
吉　林*	107.1	83.7	78.2	193	12.4

都市名	総人口(万人)	非農業人口(万人)	非農業人口の割合(%)	一万人当りの大学生数	12才以上の文盲・半文盲の割合(%)
延　吉	20.69	16.75	81.0	332	8.7
図　門	9.85	7.62	77.4	163	9.3
通　化	36.34	28.51	78.5	112	14.8
渾　江	68.49	43.61	63.7	41	21.7
四　平	35.33	27.44	77.7	137	13.2
白　城	27.80	19.35	69.6	124	13.9
黒竜江省	876.54	689.65	78.7	101	15.3
哈爾賓**	255.0	215.0	84.3	264	11.3
斉斉哈爾*	122.2	92.0	75.3	131	13.4
伊　春*	80.3	74.8	93.2	48	16.6
鶏　西*	79.3	61.3	77.3	50	17.3
鶴　崗	57.74	47.20	81.8	41	17.6
双鴨山	42.08	34.07	81.0	50	18.0
大　慶	80.21	50.09	62.5	97	15.1
佳木斯	54.65	41.97	76.8	136	14.0
七台河	29.29	15.71	53.6	33	17.4
牡丹江	60.33	48.69	80.7	132	12.8
綏芬河	2.09	1.33	63.6	64	18.0
黒　河	13.35	7.49	56.1	162	11.8
上　　海**	627.0	622.0	99.2	397	11.1
江　蘇　省	667.42	537.55	80.5	224	17.3
南　京**	213.0	174.0	81.7	384	14.4
徐　州*	77.3	66.8	86.4	177	16.2
無　錫*	79.9	63.7	79.7	235	12.8
蘇　州*	67.0	56.8	84.8	259	16.0
連雲港	44.61	27.74	62.2	120	24.9
南　通	40.27	29.70	73.8	213	21.6
常　州	51.26	44.69	87.2	234	11.1
揚　州	38.22	28.66	75.0	272	15.5
泰　州	16.13	13.53	83.9	146	21.5
鎮　江	39.73	31.93	80.4	244	14.1
清　江	—	—	—	178	21.6
浙　江　省	585.32	251.52	43.0	89	26.6
杭　州*	118.0	92.7	78.6	332	13.7
寧　波	61.56	42.20	68.6	144	14.9
温　州	51.91	36.56	70.4	102	16.1
湖　州	96.01	18.49	19.3	32	36.0
嘉　興	68.12	16.83	24.7	41	30.5
紹　興	24.41	14.87	60.9	26	35.0
金　華	79.61	13.26	16.7	48	29.0
衢　州	69.90	11.01	15.8	35	31.9
椒　江	15.80	5.60	35.4	45	32.3
安　徽　省	504.75	321.35	63.7	168	23.2
合　肥*	81.5	55.5	68.1	337	15.5
淮　北	46.37	27.23	58.7	95	25.6
蚌　蜌	59.71	39.09	65.5	143	24.9
淮　南*	103.6	55.0	53.1	79	30.3
馬鞍山	35.85	24.91	69.5	213	21.4
蕪　湖	49.17	38.58	78.5	204	18.3
銅　陵	20.41	16.95	83.1	150	19.4
屯　溪	10.32	6.07	58.8	193	33.0
安　慶	42.82	20.72	48.4	123	25.6

都市名	総人口(万人)	非農業人口(万人)	非農業人口の割合(%)	一万人当りの大学生数	12才以上の文盲・半文盲の割合(%)
阜陽	18.60	13.97	75.1	168	22.2
六安	15.60	11.89	76.2	171	21.1
宿州	20.80	11.44	55.0	136	20.5
福建省	338.03	173.93	51.5	176	22.9
福州*	112.2	70.9	63.2	288	15.1
厦門	53.26	32.81	61.6	235	21.0
南平	41.52	15.30	36.9	84	29.3
泉州	42.69	15.00	35.1	127	27.5
章州	30.45	15.53	51.0	129	28.5
三明	21.06	14.17	67.3	244	17.0
龍岩	36.85	10.22	27.7	122	21.9
江西省	436.13	239.34	54.9	149	16.9
南昌*	104.6	83.5	79.8	295	14.5
景徳鎮	55.93	29.47	52.7	96	23.2
萍郷	127.04	33.24	26.2	24	13.8
九江	37.81	24.39	64.5	164	16.5
上饒	14.06	11.12	79.1	196	13.6
撫州	16.99	10.51	61.9	154	17.0
吉安	18.03	12.79	70.9	165	14.7
贛州	33.87	18.53	54.7	163	18.1
宜春	16.62	9.72	58.5	158	15.3
鷹潭	11.18	6.07	54.3	76	22.0
山東省	1059.02	427.54	40.4	117	19.9
済南**	132.0	104.0	78.8	262	13.4
青島**	118.0	108.0	91.5	189	13.3
淄博*	223.4	64.3	28.8	53	23.1
枣庄	157.03	26.94	17.2	25	42.1
徳州	26.95	15.34	56.9	122	21.0
濰坊	103.32	29.65	28.7	128	15.0
煙台	69.94	31.12	44.5	132	10.9
済寧	75.75	20.72	27.4	175	15.2
威海	21.64	8.02	37.1	39	14.4
泰安	130.99	19.45	14.9	42	30.4
河南省	737.57	452.38	61.3	129	17.7
鄭州*	142.4	89.5	62.9	239	10.8
洛陽*	97.8	58.2	60.0	201	12.5
開封	61.92	44.78	72.3	198	19.8
平頂山	80.39	33.80	42.1	97	20.1
新郷	52.67	39.71	75.4	175	17.7
焦作	49.50	32.00	64.7	82	17.5
安陽	53.40	34.81	65.2	101	14.4
鶴壁	31.91	15.60	48.9	58	23.8
商丘	19.29	12.98	67.3	142	21.2
許昌	23.68	15.67	66.2	141	14.3
漯河	15.47	9.75	63.0	62	19.8
信陽	22.66	15.98	70.5	143	15.6
南陽	28.23	18.06	64.0	143	16.1
三門峡	14.62	7.54	51.6	106	14.7
周口	21.40	10.22	47.8	81	26.9
駐馬店	14.49	9.47	65.4	173	17.2
義馬	7.74	4.31	55.7	53	17.7

都市名	総人口（万人）	非農業人口（万人）	非農業人口の割合（%）	一万人当りの大学生数	12才以上の文盲・半文盲の割合（%）
湖北省	931.45	484.47	52.0	183	15.6
武漢**	323.0	273.0	84.5	309	12.9
黄石	43.52	38.02	87.4	189	14.0
十堰	31.50	20.39	64.7	207	18.6
宜昌	38.95	31.71	81.4	218	11.6
襄樊	40.74	29.44	72.3	224	13.4
鄂州	92.29	19.58	21.2	106	17.9
荊門	101.15	21.17	20.9	205	13.7
老河口	40.39	7.12	17.6	103	18.4
随州	127.89	14.75	11.5	90	21.0
恩施	67.34	7.95	11.8	207	16.2
沙市	24.68	21.34	86.5	152	14.2
湖南省	578.4	331.83	57.4	181	12.6
長沙*	107.2	85.9	80.1	400	7.5
株州	48.78	33.37	68.4	259	7.0
岳陽	39.81	22.83	57.4	43	19.5
湘潭	50.17	37.71	75.2	208	9.7
郴州	18.67	13.89	74.4	185	11.5
衡陽	55.13	40.19	72.9	171	12.5
邵陽	41.65	21.09	50.6	132	14.1
冷水江	26.51	8.89	33.5	53	18.2
常徳	21.36	17.05	79.8	198	11.7
益陽	35.93	15.09	42.0	209	10.9
洪江	6.76	5.47	80.9	116	18.0
懐化	41.86	9.58	22.9	212	11.6
津市	8.82	6.13	69.5	111	16.3
娄底	24.60	7.53	30.6	198	7.0
永州	51.15	7.11	13.9	221	13.2
広東省	896.20	502.42	56.1	141	14.2
広州**	312.0	238.0	76.3	270	9.1
海口	27.86	19.89	71.4	145	16.5
汕頭	74.64	47.66	63.9	88	19.0
仏山	29.98	22.97	76.6	123	13.6
江門	22.48	15.98	71.1	103	12.1
召関	34.36	28.61	83.3	160	10.6
恵州	17.44	10.77	61.8	141	13.6
肇慶	18.01	13.76	76.4	195	12.8
梅州	73.16	15.46	21.1	256	7.7
潮州	120.28	25.75	21.4	92	12.4
深圳	19.14	15.26	79.7	194	11.8
珠海	14.44	6.77	46.9	75	15.3
湛江	89.95	31.23	34.7	86	23.3
茂名	42.46	10.31	24.3	51	20.8
広西省	254.64	169.36	66.5	133	16.0
南寧*	86.6	52.5	60.6	247	10.7
柳州	61.79	50.10	81.1	169	10.3
桂林	44.69	31.41	70.3	259	15.4
吾州	25.65	19.03	74.2	134	11.8
凭祥	8.00	1.45	18.1	27	23.4
北海	17.16	11.57	67.4	60	21.7
合山	10.75	3.30	30.7	36	18.7

都市名	総人口(万人)	非農業人口(万人)	非農業人口の割合(%)	一万人当りの大学生数	12才以上の文盲・半文盲の割合(%)
四川省	1045.38	571.52	54.7	157	19.3
成都**	247.0	141.0	57.1	276	16.8
重慶**	265.0	194.0	73.2	182	13.5
自貢	89.97	35.34	39.3	82	23.7
渡口	52.89	35.59	67.3	135	22.3
内口	28.91	17.95	62.1	172	18.0
宜賓	63.09	21.44	34.0	178	15.5
泸州	31.43	22.80	72.5	172	17.4
万県	27.66	13.41	48.5	110	19.0
南充	23.17	14.99	64.7	200	17.2
達県	20.04	13.25	66.1	196	14.7
綿陽	83.49	22.07	26.4	76	33.8
楽山	97.01	29.55	30.5	59	21.1
西昌	15.72	10.13	64.4	201	17.6
貴州省	225.5	131.95	58.5	219	17.9
貴陽	131.4	83.8	63.8	226	20.1
遵義	34.72	23.37	67.3	235	15.5
安順	21.18	12.67	59.8	171	23.5
都匀	38.20	12.11	31.7	244	12.6
雲南省	318.06	153.37	48.2	116	29.2
昆明**	143.0	102.0	71.3	277	16.2
東川	27.25	6.65	24.4	44	47.0
個陽	33.77	18.99	56.2	69	24.3
大理(下関)	38.91	11.0	28.3	158	16.6
開遠	21.33	7.78	36.5	49	34.8
昭通	53.80	6.95	12.9	99	36.3
陝西省	419.13	262.71	62.7	177	20.1
西安**	218.0	161.0	73.9	369	10.5
銅川	36.87	23.43	63.6	79	20.7
宝鶏	35.21	27.87	79.2	232	13.6
延安	25.41	8.24	32.4	77	37.3
咸陽	62.43	27.28	43.7	194	15.4
漢中	41.21	14.89	36.1	110	23.0
チベット自治区	—	—	—	—	—
拉薩	—	—	—	266	26.8
甘粛省	199.08	140.67	70.7	165	18.6
蘭州**	143.0	108.0	75.5	288	13.3
嘉関	8.76	6.03	68.8	127	17.1
天水	19.67	12.14	61.7	199	23.6
玉門	15.81	7.57	47.9	113	17.5
金昌	11.84	6.93	58.5	99	21.5
青海省	63.31	51.91	82.0	186	19.3
西寧	57.64	47.30	82.1	247	14.3
格爾木	5.67	4.61	81.3	124	24.2
寧夏自治区	68.63	45.54	66.4	165	18.1
銀川	38.33	25.62	66.8	243	17.2
石山	30.30	19.92	65.7	87	19.0

都市名	総人口（万人）	非農業人口（万人）	非農業人口の割合（%）	一万人当りの大学生数	12才以上の文盲・半文盲の割合（%）
新疆自治区	261.98	195.27	74.5	108	18.2
烏魯木斉*	94.7	89.9	95.0	245	12.3
克　依	18.01	16.72	92.8	94	8.6
哈　密	26.58	14.11	53.1	132	13.5
喀　什	18.71	13.88	74.2	85	35.0
石河子	54.99	29.45	53.6	56	19.7
奎　屯	5.33	4.37	82.0	41	20.1
伊　寧	22.89	15.07	65.8	108	20.2
庫爾勒	20.77	11.77	56.7	104	16.1

注：データは次の資料による．
(1) 特大都市（**），大都市（*）については『中国統計年鑑 1983』（1983年，中国統計出版社）1982年人口センサス結果による．
(2) その他の都市については『中国城市統計年鑑 1985』（1985年，中国統計信息諮旬服務中心）データは1984年のもの．
(3) 大学生の数，及び文盲・半文盲率については『中国人口地図集』（1987年，中国統計出版社）1982年人口センサス結果による．

付録3．少数民族の人口，分布，文盲・半文盲率の状況

民族名称	人口（人）	分布地域	12才以上の文盲・半文盲率（%）		
			合計	男	女
チワン（壮）族	13,378,162	広西チワン族自治区，雲南省，広東省，貴州省	31.37	15.73	46.99
回　族	7,219,352	寧夏回族自治区，甘粛省，河南省，新疆ウイグル自治区，青海省，雲南省，河北省，山東省，安徽省，遼寧省，北京市，内蒙古自治区，黒竜江省，天津市，吉林省，陝西省	40.71	29.45	52.29
ウイグル（維吾爾）族	5,957,112	新疆ウイグル自治区，湖南省	42.18	38.87	45.69
イ（彝）族	5,453,448	四川省，雲南省，貴州省，広西チワン族自治区	61.65	45.74	77.75
ミャオ（苗）族	5,030,897	貴州省，雲南省，湖南省，広西チワン族自治区，四川省，広東省，湖北省	58.11	39.54	77.69
満　族	4,299,159	遼寧省，黒竜江省，吉林省，河北省，北京市，内蒙古自治区	17.02	11.88	23.13
チベット（蔵）族	3,870,068	チベット自治区，四川省，青海省，甘粛省，雲南省	74.31	60.88	86.78
蒙古族	3,411,657	内蒙古自治区，新疆ウイグル自治区，遼寧省，吉林省，黒竜江省，青海省，河北省，河南省，甘粛省，雲南省	28.46	21.05	36.41
トウチャ（土家）族	2,832,743	湖南省（湘西トウチャ族ミャオ族自治州），湖北省，四川省	33.38	19.91	48.81
プイ（布依）族	2,120,469	貴州省（黔南プイ族ミャオ族自治州）	55.53	33.43	77.69
朝鮮族	1,763,870	吉林省，黒竜江省，遼寧省，内蒙古自治区	10.50	4.69	16.07

民族名称	人口(人)	分布地域	12才以上の文盲・半文盲率(%)		
			合計	男	女
トン(侗)族	1,425,100	貴州省，湖南省，広西チワン族自治区	44.59	25.14	65.84
ヤオ(瑤)族	1,402,676	広西チワン族自治区，湖南省，雲南省，広東省，貴州省	46.91	30.18	64.26
ペー(白)族	1,131,124	雲南省(大理ペー族自治州)	41.27	20.81	61.61
ハニ(哈尼)族	1,058,836	雲南省(紅河ハニ族イ族自治州，思茅地区)	70.12	56.08	84.38
カザフ(哈薩克)族	907,582	新疆ウイグル自治区，甘粛省，青海省	22.07	16.42	28.15
タイ(傣)族	839,797	雲南省(シーサンパンナタイ族自治州)	56.87	44.68	68.73
リー(黎)族	817,562	広東省(海南島)	41.32	27.35	55.16
リースー(傈僳)族	480,960	雲南省(怒江リースー族自治県)，四川省	71.73	57.90	85.63
シェ(畲)族	368,832	福建省，浙江省，江西省，広東省	51.67	35.60	70.30
ラフ(拉祜)族	304,174	雲南省(シーサンパンナタイ族自治州ラフ族自治県)	82.27	77.63	86.93
ワ(佤)族	298,591	雲南省(西盟ワ族自治県)	68.85	59.18	78.49
シュイ(水)族	286,487	貴州省(三都シュイ族自治県)，広西チワン族自治区	61.61	38.65	85.63
トンシャン(東鄉)族	279,397	甘粛省(トンシャン族自治県)，新疆ウイグル自治区	86.84	77.94	96.20
ナーシー(納西)族	245,154	雲南省(麗江ナーシー族自治県)，四川省	39.00	24.75	53.19
トウ(土)族	159,426	青海省(西寧市互助トウ族自治県)，甘粛省	59.91	41.87	79.32
キルギス(柯爾克孜)族	113,999	新疆ウイグル自治区(孜勒蘇キルギス自治州)，黒竜江省	39.23	30.73	48.13
チャン(羌)族	102,768	四川省(茂汶チャン族自治県)	49.63	31.59	67.81
ダオール(達斡爾)族	94,014	内蒙古自治区，黒竜江省，新疆ウイグル自治区	17.82	15.03	20.82
ジンプォ(景頗)族	93,008	雲南省(徳宏タイ族ジンプォ族自治州)	60.96	52.08	68.82
モーラオ(仫佬)族	90,426	広西チワン族自治区(羅城県)	33.17	17.10	49.86
シボ(錫伯)族	83,629	新疆ウイグル自治区，遼寧省，吉林省	11.78	8.47	15.65
サラ(撒拉)族	69,102	青海省(循化サラ族自治区)，甘粛省	71.93	51.62	92.54
プーラン(布朗)族	58,476	雲南省(瀾滄江両岸山地)	73.56	63.17	84.02
コーラオ(仡佬)族	53,802	貴州省，広西チワン族自治区，四川省，湖南省	54.36	36.85	73.94
マオナン(毛難)族	38,135	広西チワン族自治区(柳州専区)	29.13	17.59	41.39
タジク(塔吉克)族	26,503	新疆ウイグル自治区(タジク族自治県)	46.03	35.80	56.99
プミ(普米)族	24,237	雲南省(麗江ナーシー族自治県)	61.09	42.38	79.98

民族名称	人口(人)	分布地域	12才以上の文盲・半文盲率(%)		
			合計	男	女
ヌー(怒)族	23,166	雲南省(怒江リースー族自治州ヌー族自治県)	63.12	52.13	74.70
アチャン(阿昌)族	20,441	雲南省(タイ族ジンプォ族自治州)	60.46	44.17	76.34
オウンク族(鄂温克)族	19,343	内蒙古自治区(ホロンバイル盟), 黒竜江省	15.73	12.44	19.21
ウズベク(烏孜別克)族	12,453	新疆ウイグル自治区(イーニン市, カシュガル市)	17.15	14.05	20.66
パラウン(崩竜)族	12,295	雲南省(タイ族ジンプォ族自治州)	72.88	62.06	83.80
ジン(京)族	11,995	広西チワン族自治区(汚尾, 巫頭, 山心の3島)	32.61	13.80	48.10
ジーヌオ(基諾)族	11,974	雲南省(シーサンパンナ景洪県ジーヌオ洛克人民公社)	50.52	42.10	58.61
ユイクー(裕固)族	10,569	甘粛省(ユイクー族自治県)	41.23	27.15	55.26
パオアン(保安)族	9,027	甘粛省(大河家パオアン族自治郷)	75.54	59.72	91.81
メンパ(門巴)族	6,248	チベット自治区(同自治区東南部)	44.23	32.39	56.65
トーロン(独竜)族	4,682	雲南省(怒江リースー族自治州トーロン族自治県)	61.38	51.66	70.60
オロチョン(鄂倫春)族	4,132	内蒙古自治区(オロチョン自治旗), 黒竜江省	15.08	12.81	17.46
タタール(塔塔爾)族	4,127	新疆ウイグル自治区	8.89	6.84	11.16
ロシア(俄羅斯)族	2,935	新疆ウイグル自治区(ウルムチ市, イーニン市)	18.29	7.59	24.39
ローバ(珞巴)族	2,065	チベット自治区(南部国境地帯)	68.90	60.33	76.69
カオシャン(高山)族	1,549	福建省	17.58	8.76	28.22
ホーチョ(赫哲)族	1,476	黒竜江省	14.50	8.58	21.03
まだ識別されていない民族	879,201		61.09	40.78	82.47
中国籍に入っている外国人	4,842				

注:(1) 少数民族の人口, 分布は『新中国年鑑』1984年版による. 1982年データである.
(2) 文盲・半文盲率は1982年人口センサス結果による.

付録4. 1990年人口センサスの最新データ

(国家統計局1990年10月30日より)

項目		1982年第3回人口センサス	1990年第4回人口センサス	1990年の1982年に対する増加率
1. 総人口[1]	(人)	1,008,175,288	1,133,682,501	12.45%
2. 自然変動[2]				
出生率	(‰)	20.91	20.98	0.07‰
死亡率	(‰)	6.36	6.28	−0.08‰
自然増加率	(‰)	14.55	14.70	0.15‰
3. 世帯平均人数	(人)	4.41	3.96	−0.45人
4. 性別比(女=100)		106.3	106.6	0.3 %
5. 民族				
漢族	(人)	940,880,121	1,042,482,187	10.80%
各少数民族	(人)	67,295,167	91,200,314	35.52%
6. 1万人当りの各教育水準の人数				
大学	(人)	615	1,422	131.22%
高等中学	(人)	6,779	8,039	18.59%
初等中学	(人)	17,892	23,344	30.47%
小学校	(人)	35,237	37,057	5.17%
7. 文盲・半文盲人口[3]	(人)	229,964,474	180,030,060	−21.71%
総人口に占める比率	(%)	22.81	15.88	−6.93%
8. 市, 鎮人口[4]	(人)	206,588,582	296,512,111	
総人口に占める比率	(%)	20.60	26.23	

注: (1) 総人口とは, 中国大陸の30の省, 自治区, 直轄市と現役軍人で, 台湾省と香港, マカオ地区の中国人を含まない.

(2) 自然変動: 1990年人口センサスはセンサス前の12月のデータである. 1982年の人口センサスは1981年のデータである.

(3) 文盲・半文盲人口とは15才以上で, 字が読めない, あるいは少しだけ読める人を指す.

(4) 市, 鎮人口: 1990年人口センサスの市人口とは, 区を設置する市に管轄される区人口, 及び区を設置しない市に管轄される町の人口を指す. 鎮人口とは, 区を設置しない市に管轄される居民委員会人口, 及び県に管轄される鎮の居民委員会人口を指す. 1982年人口センサスの市人口とは, 全ての市の人口を指す(市に管轄される県の人口を含まない). 鎮の人口とは, 県に管轄される鎮の人口を指す.

付録5.　1990年人口センサスによる教育水準と文盲・半文盲率

（『人民日報』（海外版）1990年11月21日第4版より）

地区	10万人当りの各教育水準の人口（人）				文盲・半文盲が総人口に占める比率（%）	
	大学	高等中学	初等中学	小学校	1990年	1982年
総計	1,422	8,039	23,344	37,057	15.88	22.81
北京市	9,301	18,974	30,551	22,577	8.70	12.43
天津市	4,668	15,908	29,379	29,635	8.92	13.94
河北省	955	7,429	24,689	36,805	15.21	22.24
山西省	1,384	8,820	29,237	35,713	11.30	17.86
内蒙古自治区	1,475	10,056	25,473	33,397	15.39	21.91
遼寧省	2,596	10,933	32,321	34,270	8.81	12.87
吉林省	2,154	12,701	26,308	35,327	10.49	16.04
黒竜江省	2,139	11,729	28,460	34,089	10.87	15.87
上海市	6,534	19,532	31,592	22,683	11.04	14.33
江蘇省	1,474	8,670	26,426	34,791	17.23	26.84
浙江省	1,170	7,006	23,741	39,664	17.46	23.93
安徽省	883	5,035	19,967	34,685	24.43	31.80
福建省	1,227	6,979	16,867	43,238	15.63	25.15
江西省	991	7,097	18,841	40,672	16.22	21.38
山東省	975	7,140	25,182	36,260	16.87	27.49
河南省	848	7,069	26,545	34,729	16.15	26.28
湖北省	1,566	8,862	23,164	35,832	15.79	23.08
湖南省	1,138	8,010	22,567	42,071	12.10	17.48
広東省	1,338	8,928	23,041	40,451	10.45	16.09
広西チワン族自治区	791	6,804	19,141	45,041	10.61	16.94
海南省	1,244	10,345	22,528	34,583	13.97	19.48
四川省	961	5,371	21,646	43,880	16.24	23.03
貴州省	777	3,927	14,645	37,336	24.27	29.90
雲南省	807	4,095	13,795	37,905	25.44	31.49
チベット自治区	574	2,122	3,850	18,597	44.43	46.13
陝西省	1,672	9,255	24,359	31,130	17.62	24.09
甘粛省	1,104	7,825	16,851	29,127	27.93	32.42
青海省	1,490	8,275	17,761	26,489	27.70	29.15
寧夏回族自治区	1,609	8,000	20,274	29,384	22.06	26.96
新疆ウイグル自治区	1,845	10,372	20,662	36,423	12.75	20.29

注：(1) 総人口は中国人民解放軍の現役軍人を含んでいる．
(2) 文盲・半文盲の比率とは15才以上で，字が読めない，あるいは少しだけ読める人が総人口に占める比率を指す．

Statistical Analysis of Causes of Illiteracy in China

Yanping Lin

(Division of International and Interdisciplinary Studies,
Graduate School, University of Tokyo)

This paper is based on the third population census taken in China in 1982. Using these statistics, the illiteracy rate was analyzed in relation to seven factors which will be discussed individually: 1. China's geographical features, 2. economic development, 3. educational development, 4. urbanization, 5. agricultural development, 6. gender, and 7. government policies and how they are carried out.

The paper is divided into three parts, the first of which concerns the present state of illiteracy in the provinces, cities, and autonomous regions. Using maps and histograms as references, the 29 provinces, cities, and autonomous regions are divided into five groups according to their illiteracy percentiles, the five consisting of low-illiteracy regions, comparatively low-illiteracy, comparatively high-illiteracy, high-illiteracy, and extremely high-illiteracy regions.

The second part is a study of the causes of illiteracy in the provinces, cities, and autonomous regions. Considering China's geographical environment, a line can be drawn north to south through the country from Yinchuan in Gansu to Guiyang in Guizhou. The author proposes for this the name "Yingui Line". In further studies using correlation and regression analysis, five variables (economic development, educational development, urbanization, agricultural development at the common level, government policies and how they are regulated) and one assisting variable (gender) are analyzed in relation to the level of illiteracy. From the results, the correlation coefficient is seen to be very high; correlation analysis tests are all significant.

In the third section, the statistical data on illiteracy are analyzed. During the analysis, the definition of illiteracy, predictions about illiteracy, and the statistical relation of the flow of population to illiteracy are discussed.

Key words: Causes of illiteracy in China, regression analysis, t-test.